

令和4年度

広島県立特別支援学校
高等部入学者選抜実施要項

広島県教育委員会

令和4年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜日程（概要）

月	日	曜日	選抜日程	特別支援学校長からの報告	
1	4	火	就学区域外出願受付(12月22日～)		
	5	水			
	6	木			
	7	金			
	8	土			
	9	日			
	10	月			
	11	火			
	12	水			
	13	木			
	14	金			
	15	土			
	16	日			
	17	月			
	18	火			
	19	水			
	20	木			
	21	金			
	22	土			
	23	日			
	24	月			
	25	火			
	26	水			
	27	木			
	28	金		↓（郵送による提出期限）	
	29	土			
	30	日			
	31	月		↓（正午）	
	2	1	火		
		2	水		
		3	木		
4		金			
5		土			
6		日			
7		月			
8		火	広島北特別支援学校一次募集出願登録開始 (～2月18日正午)		
9		水			
10		木			
11		金			
12		土			
13		日			
14		月			
15		火	一次募集入学願書等受付, 調査書等提出		
16		水			
17		木		↓（郵送による提出期限）	
18		金		↓（正午）	一次募集志願者数 (電子メール:～午後1時30分)
19		土			
20		日			
21		月			
22		火			一次募集出願状況報告(電子メール)
23		水			
24		木			
25		金			
26		土			
27		日			
28		月			

3	1	火		
	2	水		
	3	木		
	4	金		
	5	土		
	6	日		
	7	月	一次募集学力検査等 一次募集に係る追検査及び新型コロナウイルス感染症に係る追検査受検願等提出	一次募集3月7日現在の受検者数 (電子メール:~正午)
	8	火	↓	一次募集3月8日現在の受検者数 (電子メール:~正午)
	9	水	↓(正午)	一次募集に係る追検査受検承認者数 新型コロナウイルス感染症に係る追検査受検承認者数 (電子メール:~午後1時30分)
	10	木		
	11	金	一次募集に係る追検査	一次募集に係る追検査受検者数 (電子メール:~午後4時)
	12	土		
	13	日		
	14	月		
	15	火	一次募集合格者発表 一次募集辞退届提出 一次募集請書提出	
	16	水	↓(午後4時)	
	17	木	二次募集実施校・定員公表 広島北特別支援学校二次募集出願登録開始 (午後3時~3月22日正午)	一次募集合格者数, 辞退者数及び辞退理由 (電子メール:~午前10時)
	18	金	二次募集入学願書等受付	
	19	土		
	20	日		
	21	月		
22	火	↓(正午) (正午) ↓ (正午) ↓	二次募集志願者数 (電子メール:~午後1時30分)	
23	水	新型コロナウイルス感染症に係る追検査 二次募集学力検査等 二次募集に係る追検査受検願等提出及び二次募集に係る追検査	新型コロナウイルス感染症に係る追検査受検者数 二次募集受検者数 (電子メール:~午後4時) 二次募集出願状況報告(電子メール)	
24	木	新型コロナウイルス感染症に係る追検査及び 二次募集合格者発表 簡易開示開始 新型コロナウイルス感染症に係る追検査及び 二次募集請書・辞退届提出		
25	金			
26	土			
27	日			
28	月			
29	火	↓(正午)	新型コロナウイルス感染症に係る追検査, 二次募集合格者数, 辞退者数及び辞退理由 (電子メール:~午後4時)	
30	水			
31	木			
4	∴	∴	∴	
	8	金	入学許可状況報告(電子メール)	
	∴	∴	∴	
	25	月	↓(午後4時)	
	∴	∴	∴	∴
28	木		簡易開示実施状況報告(電子メール)	

目 次

○令和4年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜の基本方針	1
○令和4年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜日程	4
令和4年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜実施要項	5
第1 一次募集	6
1 実施校・対象学科	6
2 対象学年	6
3 入学定員	6
4 出願に係る就学区域	7
5 出願資格	7
6 出願手続	8
（1）出願書類	8
（2）出願期間	8
（3）出願方法	8
（4）就学区域外出願	9
7 入学者選抜	10
（1）選抜の期日	10
（2）選抜の方法	10
（3）選抜結果の発表	11
（4）選抜結果の通知及び「請書・辞退届」の提出	11
（5）諸報告	11
8 やむを得ない事由による欠席者の取扱い	12
（1）手続	12
（2）選抜	13
（3）選抜の方法	13
（4）選抜結果の発表	13
（5）その他	13
第2 二次募集	14
1 実施校・対象学科	14
2 対象学年	14
3 入学定員	14
4 出願に係る就学区域	14
5 出願資格	14
6 出願手続	14
（1）出願書類	14
（2）出願期間	14
（3）出願方法	14
（4）就学区域外出願	14
7 入学者選抜	15
（1）選抜の期日	15
（2）実施の公表	15
（3）選抜の方法	15

(4) 選抜(Ⅱ)の一般学力検査結果の活用	15
(5) 選抜結果の発表	15
(6) 選抜結果の通知及び「請書・辞退届」の提出	15
(7) 諸報告	15
8 やむを得ない事由による欠席者の取扱い	15
(1) 手続	16
(2) 選抜	17
(3) 選抜の方法	17
(4) 選抜結果の発表	17
第3 その他	18
1 教育相談の実施	18
2 特別な配慮	18
3 学力検査受検上の留意事項	18
4 身体障害者手帳又は療育手帳の交付を受けていない者の出願資格について	19
5 就学義務猶予免除者の高等部への出願資格について	19
6 普通科への過年齢者の入学について	20
7 出願期間等の変更	20
8 専門教育を主とする学科の出願方法等	20
9 広島北特別支援学校の出願手続等	20
10 入学者選抜の結果に係る簡易開示	20
11 その他	21

[別紙]

別紙1 一次募集の「入学願書」、「調査書」及び「特別支援学校長が別に定める書類」の郵便による送付における未着事態への対応	22
別紙2 諸報告	23
別紙3 入学者選抜結果の通知以降の手続	24
別紙4 令和4年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜における新型コロナウイルス感染症への対応について	25
別紙5 広島北特別支援学校の出願方法等	27

[別表]

別表第1 就学区域外出願に係る提出書類	30
別表第2 簡易開示において本人等であることを確認する書類	31
別表第3 実態把握の観点	32

[様式]

様式第1号 入学願書	34
様式第1号の2 入学併願書	35
様式第2号 志願者名簿	36
様式第3号 就学区域外出願許可願	37
様式第3号の2 就学区域外出願許可願(日本国内における外国人学校からの出願)	38
様式第4号 出身学校長意見書	39

様式第 5 号	志願先特別支援学校長意見書	40
様式第 6 号	居住確約書	41
様式第 7 号	追検査受検願	42
様式第 8 号	追検査受検願提出者名簿	43
様式第 9 号	追検査受検承認（不承認）通知書	44
様式第 10 号	志願者数等報告（一次募集）	45
様式第 10 号の 2	新型コロナウイルス感染症に係る追検査受検承認者数等報告 （一次募集）	46
様式第 11 号	出願状況報告	47
様式第 12 号	志願者数等報告（二次募集）	48
様式第 13 号	選抜（Ⅱ）の一般学力検査結果について	49
様式第 14 号	入学者選抜結果通知書	50
様式第 15 号	請書・辞退届	51
様式第 16 号	入学者選抜結果について（志願先特別支援学校と出身学校が異なる場合）	52
様式第 17 号	出願書類郵送連絡記録簿	53
様式第 18 号	簡易開示請求受付処理簿	54
様式第 19 号	就学区域外出願報告書	55
様式第 20 号	入学者選抜に関する携行願	56

〔関係法令等〕

学校教育法（抜粋）	57
学校教育法施行令（抜粋）	58
学校教育法施行規則（抜粋）	59
広島県立特別支援学校の就学区域に関する規則	61
特別支援学校の高等部普通科への過年齢者の入学許可基準について	70

令和4年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜の基本方針

入学者の選抜は、次により各特別支援学校、学科等の特色に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を判定して行うものとする。

第1 一次募集

1 選抜の方法

(1) 普通科（職業コースを除く。）

ア 学力検査

(ア) 知的障害のみの入学志願者に係る実施教科は国語、数学、外国語（英語）の3教科とする。

上記以外の入学志願者に係る実施教科は、3教科以上とし、国語、社会、数学、理科及び外国語（英語）の5教科の中から各校で決定する。

ただし、いずれの学力検査においても、中学校又は特別支援学校中学部で履修した教科に応じて、実施教科の一部又は全部を実施しないことができる。

(イ) 知的障害のみの入学志願者に係る検査問題は、県教育委員会が作成する。

上記以外の入学志願者に係る検査問題は、県教育委員会と協議の上、各校で作成する。

(ウ) 知的障害のみの入学志願者に係る実施時間は、各教科それぞれ30分とする。

上記以外の入学志願者に係る実施時間は、各教科それぞれ30分から50分の間の時間とし、各校で決定する。

(エ) 配点は、各教科それぞれ100点満点とする。

(オ) 検査問題は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領のうち中学部の内容に準拠した内容とし、基礎的・基本的な知識及び技能の習得の状況並びにこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を幅広く検査するよう配慮して出題する。

イ 面接

ウ その他

ア及びイに定めるもののほか、特別支援学校長（以下「校長」という。）は、必要に応じて観点を定め、検査を実施することができる。

(2) 普通科職業コース

ア 学力検査

(ア) 実施教科は、国語、数学、外国語（英語）の3教科とする。

(イ) 検査問題は、県教育委員会が作成する。

(ウ) 実施時間は、各教科それぞれ30分とする。

(エ) 配点は、各教科それぞれ100点満点で、合計300点満点とする。

(オ) 検査問題は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領のうち中学部の内容に準拠した内容とし、職業生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の習得の状況並びにこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を幅広く検査するよう配慮して出題する。

イ 作業・運動能力検査

(ア) 実施時間は、50分とする。

(イ) 配点は、200点満点とする。

(ウ) 検査は、次の点に配慮して実施する。

a 作業能力検査は、指示の理解度、作業遂行能力、手先の巧緻性^ち等について幅広く検査する。

b 運動能力検査は、基礎的な運動能力や身体各部位の動き等について幅広く検査する。

ウ 面接

(ア) 集団面接とする。

(イ) 実施時間は、30分以内とする。

(ウ) 配点は、100点満点とする。

(エ) 評価は、思考力、判断力、表現力、主体的に学習に取り組む態度の観点で行う。

(3) 専門教育を主とする学科

ア 学力検査

(ア) 検査問題は、県教育委員会と協議の上、学科の特色に応じ、当該校が作成する。

(イ) 実施時間は、各教科等それぞれ90分以内とする。

(ウ) 配点は、学科の特色に応じて、別に定めることとする。

イ 面接及び職業適性機能検査

校長は、学科の特色に応じ、面接及び学科に関連する職業適性機能検査を実施することができる。

2 合格者の決定

(1) 普通科（職業コースを除く。）

学力検査、調査書、面接及び必要に応じて実施した検査の結果を総合的に判断して決定する。

(2) 普通科職業コース

学力検査、作業・運動能力検査、調査書及び面接の結果を総合的に判断して決定する。

(3) 専門教育を主とする学科

学力検査の結果、調査書、面接及び学科に関連する職業適性機能検査を実施した学科にあっては、その結果並びに校長が別に定める書類の記載事項を総合的に判断して決定する。

第2 二次募集

1 実施学校・対象学科

普通科（職業コースを除く。）並びに一次募集における合格者数（入学を辞退した者を除く。）が入学定員に満たない普通科職業コース及び専門教育を主とする学科において実施する。

2 選抜の方法

一次募集と同様に実施する。

ただし、校長は、単一障害（知的障害を除く）を有する受検者の内、広島県公立高等学校入学者選抜の選抜（Ⅱ）（以下「選抜（Ⅱ）」という。）を受検した者については、選抜（Ⅱ）の一般学力検査の結果をもって、学力検査に代えることができる。

3 合格者の決定

一次募集と同様に実施する。

ただし、校長は、単一障害（知的障害を除く）を有する受検者の内、選抜（Ⅱ）を受検した者については、選抜（Ⅱ）の一般学力検査の結果を選抜の資料に加えることができる。

第3 その他

入学者選抜の結果に係る簡易開示については、別に定めるところによる。

令和4年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜日程

1 一次募集

内 容	実施日・期間
就学区域外出願受付	12月22日(水)～1月31日(月)正午
インターネット 出 願 受 付	2月8日(火)～2月18日(金)正午
入学願書等受付 調査書等提出	2月15日(火)～2月18日(金)正午
学 力 検 査 等	3月7日(月)～3月8日(火) (学校により3月7日(月)のみを実施日とすることがある。)
合 格 者 発 表	3月15日(火)

2 二次募集

内 容	実施日・期間
インターネット 出 願 受 付	3月17日(木)午後3時～3月22日(火)正午
入学願書等受付	3月18日(金)～3月22日(火)正午
学 力 検 査 等	3月23日(水)
合 格 者 発 表	3月24日(木)

令和4年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜実施要項

令和4年度広島県立特別支援学校高等部の入学者の選抜は、「令和4年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜の基本方針」に定めるもののほか、この要項に定めるところにより実施する。

この要項における用語の定義は、次のとおりである。

用語	定義
中学校	中学校，義務教育学校又は中等教育学校の前期課程
中学校を卒業	中学校を卒業（中等教育学校の前期課程の場合は修了）
出身学校	志願者が卒業又は在学している特別支援学校中学部，中学校，義務教育学校又は中等教育学校の前期課程 ただし，専攻科については，志願者が卒業又は在学している特別支援学校高等部，高等学校又は中等教育学校
出身学校長	出身学校の校長
就学区域規則	広島県立特別支援学校の就学区域に関する規則 （平成15年広島県教育委員会規則第9号）
出身学校卒業後5年を超える者	平成28年3月以前に出身学校を卒業した者

第1 一次募集

1 実施校・対象学科

(1) 普通科（職業コースを除く。）

障害種別	学校名
視覚障害	広島中央特別支援学校
聴覚障害	広島南特別支援学校
肢体不自由	広島特別支援学校, 福山特別支援学校, 西条特別支援学校
病弱	広島西特別支援学校
知的障害	尾道特別支援学校, 尾道特別支援学校しまなみ分校, 広島特別支援学校, 廿日市特別支援学校, 福山北特別支援学校, 三原特別支援学校, 呉特別支援学校, 庄原特別支援学校, 広島北特別支援学校, 沼隈特別支援学校, 黒瀬特別支援学校, 呉南特別支援学校

(2) 普通科職業コース

障害種別	学校名
知的障害	福山北特別支援学校, 広島北特別支援学校

(3) 専門教育を主とする学科

障害種別	学校名	学科
視覚障害	広島中央特別支援学校	保健理療科, 専攻科理療科, 専攻科保健理療科

2 対象学年

第1学年

3 入学定員

(1) 普通科（職業コースを除く。） 若干名とする。

(2) 普通科職業コース

学校名	学科	入学定員
福山北特別支援学校	普通科職業コース	16人（2学級）
広島北特別支援学校	普通科職業コース	16人（2学級）

(3) 専門教育を主とする学科

学校名	学科	入学定員
広島中央特別支援学校	保健理療科	8人（1学級）
	専攻科理療科	8人（1学級）
	専攻科保健理療科	8人（1学級）

4 出願に係る就学区

志願者は、就学区規則により就学することができるものと定められた特別支援学校に出願することができる。ただし、次表の地域等においては、各分級・分教室の設置目的を踏まえ、当該本校の分級・分教室に出願すること。

本 校	分級・分教室	地 域 等
西条特別支援学校	八本松分級	広島県立障害者療育支援センターわかば療育園に入所している者（入所する見込みの者を含む。）
三原特別支援学校	大崎分教室	保護者の住所が大崎上島町の者
呉特別支援学校	江能分級	保護者の住所が江田島市、呉市（音戸町及び倉橋町に限る。）の者

※ 保護者とは、未成年の者についてはその親権者又は未成年後見人（親権者又は未成年後見人に事故等のやむを得ない事由があるときは、その代理人）、成年の者についてはその保証人をいう。

5 出願資格

(1) 学校教育法施行令第22条の3に該当する視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者であって、かつ、次のアからウまでのいずれかの条件を満たす者が出願できる。この場合において、出願できる学科の障害種別については、「第1 一次募集」の「1 実施校・対象学科」とおりとする。ただし、高等学校卒業者は、知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校（視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校において、当該志願者に対して、入学後、知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の教育課程を編成する必要があると志願先校長が判断する場合も含む。）を志願することはできない。

ア 専攻科以外の学科（普通科職業コースを除く。）

(ア) 令和4年3月に特別支援学校中学部を卒業する見込みの者又は特別支援学校中学部を卒業した者

(イ) 令和4年3月に中学校を卒業する見込みの者又は中学校を卒業した者

(ウ) 学校教育法施行規則第95条各号のいずれかに該当する者又は令和4年3月に同条第1号若しくは第2号に規定する課程を修了する見込みの者

(エ) 日本国内において、外国人学校の教育により9年の課程を令和4年3月31日までに修了又は修了する見込みの外国人で、令和4年3月31日までに満15歳以上に達する者

イ 普通科職業コース

前記ア(ア)から(エ)までのいずれかに該当する者のうち、公共交通機関等を利用して自力で通学することが見込める者

ウ 専攻科

(ア) 令和4年3月に特別支援学校高等部を卒業する見込みの者又は特別支援学校高等部を卒業した者

(イ) 令和4年3月に高等学校若しくは中等教育学校を卒業する見込みの者又は高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者（これに相当する課程を修了した者

を含む。)

(ウ) 学校教育法施行規則第 150 条各号のいずれかに該当する者又は令和 4 年 3 月に同条第 1 号若しくは第 2 号に規定する課程を修了する見込みの者

- (2) 志願者は、県内の二つ以上の特別支援学校を併願することはできない。ただし、広島特別支援学校（知的障害）の就学区域にある者で、広島北特別支援学校の普通科職業コースに出願した者は、広島特別支援学校（知的障害）の普通科を併願できるものとする。
- (3) 専門教育を主とする学科においては、専攻科理療科と専攻科保健理療科の併願ができる。併願の方法については、当該特別支援学校長が別に定める。
- (4) 普通科職業コースに出願した者は、当該特別支援学校の普通科（職業コースを除く。）を併願できるものとする。併願の方法については、当該特別支援学校長が別に定める。ただし、広島特別支援学校の就学区域にある者は、広島北特別支援学校の普通科（職業コースを除く。）を併願できない。

6 出願手続

(1) 出願書類

出願に必要とする書類（以下「出願書類」という。）は、次のとおりとする。

ア 入学願書（様式第 1 号）

イ 調査書（出身学校卒業後 5 年を超える者については、卒業証明書）

特別支援学校長は、調査書に障害の状況及び性別を記載する欄を必ず設けること。また、出席等に係る日数の記載欄を設ける場合には、欠席の日数及びその主な理由を記載する欄のみ設けること。

障害の状況の記載事項については、別表第 3 「実態把握の観点」を参考とすること。

ウ 特別支援学校長が別に定める書類

(2) 出願期間

出願書類の提出は、令和 4 年 2 月 15 日（火）から 2 月 18 日（金）正午までとする。

なお、郵便により提出する場合は、簡易書留郵便により、2 月 17 日（木）までに必着するよう提出すること。

また、出身学校長は、郵便により提出後、電話により速やかに提出先の特別支援学校長に郵便により提出した旨の連絡を行うこと。

(3) 出願方法

ア 志願者

志願者は、入学願書を作成し、志願する特別支援学校の中学部を卒業する見込みの者又は卒業した者は、志願先の特別支援学校長に提出し、その他の者は、出身学校長を経由して志願先の特別支援学校長に提出する。

出身学校卒業後 5 年を超える者については、志願先の特別支援学校長に直接持参により提出するものとする。

イ 出身学校長

出身学校長は、志願者から提出された入学願書の記載事項に誤りがないことを確認の上、調査書、特別支援学校長が別に定める書類及び志願者名簿（様式第2号）を2部添えて、前記（2）の期間内に志願先の特別支援学校長に提出する。

ウ 志願先特別支援学校長

（ア）志願先特別支援学校長は、志願者又は出身学校長から出願書類の提出を受けたときは、この要項及び志願先特別支援学校長が定める要件を備えていることを確認の上、これを受理し、所定の欄に受付印を押印する。

（イ）出願書類を受理した志願先特別支援学校長は、出身学校と志願先特別支援学校が異なる場合、受付印を押印した志願者名簿（様式第2号）1部を出身学校長に交付する。

エ その他

（ア）出身学校長から志願先特別支援学校長に、郵送による出願書類の提出を行った旨の電話連絡があった場合、志願先特別支援学校長はその連絡があった日時及び出身学校の対応者名を出願書類郵送連絡記録簿（様式第17号）に記録すること。

（イ）郵便による提出を行う旨の連絡があった出身学校から出願書類が届いた場合、志願先特別支援学校長は、出身学校長にその旨を電話連絡し、その連絡をした日時及び出身学校の対応者名を様式第17号に記録すること。

（ウ）志願先特別支援学校長は、郵便による出願書類の提出の連絡があったにもかかわらず令和4年2月17日（木）午後4時までに届かなかった場合、「一次募集の『入学願書』、『調査書』及び『特別支援学校長が別に定める書類』の郵便による送付における未着事態への対応」（別紙1）により対応する。

（4）就学区域外出願

ア 教育委員会の許可が必要な場合

次の（ア）から（エ）までのいずれかに該当する者は、入学願書提出前に、特別支援教育課に必要書類（別表第1参照）を令和3年12月22日（水）から令和4年1月31日（月）正午までに提出し、就学区域外出願の許可を受けなければならない。

なお、結果は、出身学校長（出身学校卒業後5年を超える者については志願者）に通知する。

（ア）就学区域規則第4条により、所定の就学区域外の特別支援学校を志願しようとする者

（イ）出願時において、保護者の住所が志願先特別支援学校の就学区域外にある者（県外居住者及び海外居住者を含む。）で、入学時に、当該校の就学区域内に保護者が居住する予定の者

（ウ）5（1）ア（エ）により出願する者

（エ）その他（イ）に準ずる者

〔就学区域外出願許可願提出先〕

提出先	提出先住所	提出期間
広島県教育委員会事務局 学びの革新推進部 特別支援教育課	〒730-8514 広島市中区基町 9番42号	令和3年12月22日（水）から 令和4年1月31日（月）正午まで ※ なお、郵便により提出する場合は、簡易書留郵便により、令和4年1月28日（金）までに必着するよう提出すること。

※ 提出期限後に、保護者の転勤等により教育委員会の就学区域外出願許可が必要となる志願者については、特別支援教育課の判断に従って手続を行うこと。

イ 教育委員会の許可が不要な場合

5（1）アに定める出願資格の（ア）から（ウ）までのいずれかに該当する者で、保護者が、令和4年2月15日（火）現在、単身赴任などで志願先特別支援学校の就学区域内に居住し、入学後も保護者の住所に変更がない場合は、出身学校長意見書（様式第4号）、保護者及び志願者の住民票記載事項証明書を入願書に添付して、入学願書受付期間内に志願先特別支援学校長に提出すること。

7 入学者選抜

（1）選抜の期日

令和4年3月7日（月）～令和4年3月8日（火）

（学校により3月7日（月）のみを実施日とすることがある。）

（2）選抜の方法

ア 特別支援学校長は、令和4年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜の基本方針に基づいて、各特別支援学校の実施要項を作成し、選抜はその実施要項に基づき行うものとする。なお、各特別支援学校の実施要項は、令和3年12月13日（月）までに特別支援教育課に電子メールで提出するとともに、各校のホームページへ掲載すること。

イ 特別支援学校長は、校長を委員長とする入学者選抜に関する委員会を設置し、出願書類及び学力検査等、入学者選抜の結果を総合的に判断して、入学者の適正な選抜を行うものとする。

ウ 広島北特別支援学校の普通科職業コースを志願し、広島特別支援学校の普通科を併願する者（以下「二校併願者」という。）の学力検査等を実施した広島北特別支援学校長は、実施後遅滞なく当該志願者の学力検査等の結果を広島特別支援学校長に知らせるものとし、広島特別支援学校長は、当該志願者が普通科職業コースの合格者とならなかった場合において、その提供された学力検査等の結果を用いて入学者選抜を行うものとする。

エ 二校併願者への入学者選抜に当たっては、広島北特別支援学校長と広島特別支援学校長は、互いの入学者選抜事務に支障が生じないよう十分な連携を行うものとする。

オ 遅刻者の取扱いについては、次のとおりとする。

（ア）検査時間が30分の学力検査については、検査開始後15分以上遅刻した者、検査時間が50分の学力検査については、検査開始後20分以上遅刻した者は、原則としてその時限の受検をさせないものとする。

- (イ) 実音聴取の途中での入室は認めないものとする。
- (ウ) その他特別の事情のある場合は、特別支援学校長が別に定めるものとする。

(3) 選抜結果の発表

特別支援学校長は、合格者の発表を令和4年3月15日（火）に次の方法で行う。

- ア 各校敷地内への掲示
- イ 受検者に対して選抜結果の通知
- ウ 普通科職業コース及び専門教育を主とする学科においては、各校敷地内への掲示と併せて各校ホームページへの掲載

学 校 名	ホームページアドレス
広島中央特別支援学校	http://www.hiroshima-sb.hiroshima-c.ed.jp/
福山北特別支援学校	http://www.fukuyamakita-sh.hiroshima-c.ed.jp/
広島北特別支援学校	http://www.hiroshimakita-sh.hiroshima-c.ed.jp/

(4) 選抜結果の通知及び「請書・辞退届」の提出（別紙3参照）

- ア 特別支援学校長は、令和4年3月15日（火）に、次のとおり、選抜結果の通知等を行う。

なお、二校併願者の入学者選抜を行った広島特別支援学校長は、同じく選抜結果の通知等を行うものとする。

- (ア) 志願する特別支援学校の中学部を卒業する見込みの者及び卒業した者並びに出身学校卒業後5年を超える者並びに専攻科に出願した者に対しては、「入学者選抜結果通知書」（様式第14号）を本人に通知する。この場合において、合格者には「請書・辞退届」（様式第15号）を添付する。

- (イ) 前記（ア）以外の者に対しては、「入学者選抜結果について（通知）」（様式第16号）に様式第14号を添付して、出身学校長に通知する。この場合において、合格者がいる場合には様式第15号を添付する。通知を受けた出身学校長は、様式第14号を本人に交付するとともに、合格者には様式第15号を交付する。

- イ 合格者は、「請書・辞退届」（様式第15号）を作成し、志願先の特別支援学校長に提出しなければならない。提出期日は、「請書」が令和4年3月22日（火）正午まで、「辞退届」が令和4年3月16日（水）午後4時までとする。

なお、郵便により提出する場合は、簡易書留郵便により期日内に必着するよう提出すること。

- ウ 入学者選抜の結果、合格者とならなかった者が特別支援学校高等部の二次募集に出願する場合は、改めて、後記の「第2 二次募集」の手続を行わなければならない。

(5) 諸報告

特別支援学校長は、別紙2に示すとおり志願状況等について特別支援教育課に報告する。

8 やむを得ない事由による欠席者の取扱い

検査当日の特別な配慮によっても対応できず、やむを得ず普通科職業コース又は専門教育を主とする学科の一次募集を欠席した者のうち、欠席した事由が次の表に該当し、志願先特別支援学校長が審査し正当と認められた場合に限り、一次募集に係る追検査を受検することができる。

	事 由
大規模災害による罹災等	○検査当日の風水震災その他の非常災害による交通遮断等。
疾 病	○学校保健安全法施行規則第 18 条において学校において予防すべき感染症に指定されている疾病等。

上記の表にかかわらず、生徒が新型コロナウイルス感染症に感染したことが判明した場合又は生徒が感染者の濃厚接触者に特定された場合等で、一次募集を欠席した者を対象とした追検査（新型コロナウイルス感染症に係る追検査）については、「令和4年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜における新型コロナウイルス感染症への対応について」（別紙4）によるものとする。

(1) 手続

ア 志願者

一次募集に係る追検査の受検を希望する者は、次の（ア）の書類に必要事項を記入し、（ア）及び（イ）の書類を出身学校長を経由して志願先特別支援学校長に提出する。

ただし、出身学校卒業後5年を超える者については、（ア）及び（イ）の書類を志願先特別支援学校長に原則保護者が直接持参により提出するものとする。

（ア）追検査受検願（様式第7号）

（イ）大規模災害による罹災等にあつてはやむを得ず受検できなかった理由が証明できる書類、疾病にあつては検査当日の医師の診断書

イ 出身学校長

出身学校長は、次の（ア）から（ウ）の書類を令和4年3月9日（水）正午までに原則として持参により志願先特別支援学校長に提出する。

なお、提出に当たっては、志願者の提出した（ア）及び（イ）の書類の記載事項等に誤りがないことを確認すること。

また、出身学校長は、下記ウにより交付を受けた追検査受検承認（不承認）通知書（様式第9号）を一次募集に係る追検査受検希望者に交付する。

（ア）追検査受検願（様式第7号）

（イ）大規模災害による罹災等にあつてはやむを得ず受検できなかった理由が証明できる書類、疾病にあつては検査当日の医師の診断書

（ウ）追検査受検願提出者名簿（様式第8号）

ウ 志願先特別支援学校長

志願先特別支援学校長は、出身学校長から追検査受検願、大規模災害による罹災等にあつてはやむを得ず受検できなかった理由が証明できる書類（疾病にあつては検査当日の医師の診断書）及び追検査受検願提出者名簿の提出を受けたときは、その申請事由を審査し、必要事項を記載した追検査受検願提出者名簿の写しとともに、追検査受検承認（不承認）通知書（様式第9号）を出身学校長に交付する。

また、出身学校卒業後5年を超える者から同様の提出を受けたときは、その申請事由を審査し、追検査受検承認（不承認）通知書（様式第9号）を原則保護者に交付する。

（2）選抜

ア 検査方法

一次募集に係る追検査は、学力検査及び面接とその他必要とする検査を実施するものとし、普通科職業コース又は専門教育を主とする学科を置く特別支援学校（以下「対象校」という。）の校長が定め、当該特別支援学校の入学者選抜実施要項により公表する。

イ 実施期日

令和4年3月11日（金）

ウ 集合及び開始の時刻

対象校の校長が別に定める。

エ 実施場所

志願先特別支援学校

（3）選抜の方法

ア 特別支援学校長は、校長を委員長とする入学者選抜に関する委員会を設置して選抜を行うものとする。

イ 特別支援学校長は、出願書類及び学力検査等の結果を総合的に判断して決定する。

ウ 合格者は一次募集の定員に含めて決定する。

エ 二校併願者の一次募集に係る追検査を実施した広島北特別支援学校長は、実施後遅滞なく当該志願者の学力検査等の結果を広島特別支援学校長に知らせるものとし、広島特別支援学校長は、当該志願者が普通科職業コースの合格者とならなかった場合において、その提供された学力検査等の結果を用いて入学者選抜を行うものとする。

（4）選抜結果の発表

特別支援学校長は、合格者の発表を令和4年3月15日（火）に7（3）の方法で行う。

（5）その他

ア 入学者選抜の結果、合格者とならなかった者が特別支援学校高等部の二次募集に出願する場合は、改めて、後記の「第2 二次募集」の手続を行わなければならない。

イ 二校併願者の一次募集に係る追検査を実施するに当たっては、広島北特別支援学校長と広島特別支援学校長は、互いの入学者選抜事務に支障が生じないよう十分な連携を行うものとする。

第2 二次募集

1 実施校・対象学科

一次募集を実施した普通科（職業コースを除く。）並びに一次募集の結果、入学を辞退した者を除く合格者数が入学定員に満たない普通科職業コース及び専門教育を主とする学科において実施する。

2 対象学年

第1学年

3 入学定員

(1) 普通科（職業コースを除く。）は、若干名とする。

(2) 普通科職業コース及び専門教育を主とする学科の定員は、入学定員から一次募集の合格者数（入学を辞退した者を除く。）を除いた人数とする。

4 出願に係る就学区域

一次募集の取扱いに準ずるものとする。

5 出願資格

次の(1)及び(2)の両方の条件を満たす者が出願できる。

なお、併願については、「第1 一次募集」の「5 出願資格」の(2)、(3)及び(4)によるものとする。

(1) 「第1 一次募集」の「5 出願資格」の(1)に該当する者

(2) 県内のいずれの特別支援学校の高等部又はいずれの高等学校（高等専門学校を含む。）にも合格していない者

6 出願手続

(1) 出願書類

一次募集の手続に準ずるものとする。

なお、出身学校長は、志願者が二次募集の「5 出願資格」の(2)に該当する者であることを確認の上、出願書類の提出をすること。

(2) 出願期間

出願書類の提出は、令和4年3月18日（金）から3月22日（火）正午までとする。

なお、原則、郵便による提出はできないこととする。

(3) 出願方法

一次募集の手続に準ずるものとする。

(4) 就学区域外出願

教育委員会の就学区域外出願の許可が必要となる志願者については、特別支援教育課の判断に従って手続を行うこととする。

7 入学者選抜

各特別支援学校長は、次のとおり入学者選抜を実施する。

(1) 選抜の期日

令和4年3月23日(水)

(2) 実施の公表

広島県教育委員会ホームページにおいて、令和4年3月17日(木)に二次募集の実施の有無を公表する。

(広島県教育委員会ホームページアドレス：

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/>)

(3) 選抜の方法

一次募集の手續に準ずるものとする。

(4) 選抜(Ⅱ)の一般学力検査結果の活用

公立高等学校入学者選抜における選抜(Ⅱ)の一般学力検査の結果を選抜の資料に加える特別支援学校長で、他の高等学校の資料を求める場合は、志願者から提出された入学願書(様式第1号)を基に選抜(Ⅱ)の一般学力検査結果について(様式第13号)を作成し、該当する高等学校長に資料を求めること。

なお、この場合の依頼書の取扱いについては、学校間で連携し、資料の内容が他に漏れることのないよう十分留意するとともに、送付は校長宛ての親展とすること。

(5) 選抜結果の発表

令和4年3月24日(木)に、一次募集の手續に準じて行う。

(6) 選抜結果の通知及び「請書・辞退届」の提出

一次募集の手續に準ずるものとする。

ただし、特別支援学校長が行う選抜結果等の通知については令和4年3月24日(木)、合格者が行う「請書・辞退届」の提出期限は令和4年3月29日(火)正午とする。

(7) 諸報告

特別支援学校長は、別紙2に示すとおり志願状況等について特別支援教育課に報告する。

8 やむを得ない事由による欠席者の取扱い

検査当日の特別な配慮によっても対応できず、やむを得ず普通科(職業コースは除く。)の二次募集を欠席した者のうち、欠席した事由が次の表に該当し、志願先特別支援学校長が審査し正当と認められた場合に限り、二次募集に係る追検査を受検することができる。

また、やむを得ず普通科職業コースの二次募集を欠席した者のうち、普通科(職業コースを除く。)を併願した者についても、欠席した事由が次の表に該当し、志願先特別支援学校長が審査し正当と認められた場合に限り、普通科(職業コースを除く。)において二次募集に係る追検査を受検することができる。

	事 由
大規模災害による罹災等	○検査当日の風水震火災その他の非常災害による交通遮断等。
疾 病	○学校保健安全法施行規則第 18 条において学校において予防すべき感染症に指定されている疾病等（新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者に特定された場合を含む。）。

(1) 手続

ア 志願者

二次募集に係る追検査の受検を希望する者は、次の（ア）の書類に必要事項を記入し、（ア）及び（イ）の書類を出身学校長を経由して志願先特別支援学校長に提出する。

ただし、出身学校卒業後5年を超える者については、（ア）及び（イ）の書類を志願先特別支援学校長に原則保護者が直接持参により提出するものとする。

（ア）追検査受検願（様式第7号）

（イ）大規模災害による罹災等にあつてはやむを得ず受検できなかった理由が証明できる書類、疾病にあつては検査当日の医師の診断書

ただし、生徒が新型コロナウイルス感染症に感染したことが判明した場合又は生徒が感染者の濃厚接触者に特定された場合等で欠席したときには、検査当日の医師の診断書は不要。

イ 出身学校長

出身学校長は、次の（ア）から（ウ）の書類を令和4年3月23日（水）午後2時までに原則として持参により志願先特別支援学校長に提出する。

なお、提出に当たっては、志願者の提出した（ア）及び（イ）の書類の記載事項等に誤りがないことを確認すること。

また、出身学校長は、下記ウにより交付を受けた追検査受検承認（不承認）通知書（様式第9号）を二次募集に係る追検査受検希望者に交付する。

（ア）追検査受検願（様式第7号）

（イ）大規模災害による罹災等にあつてはやむを得ず受検できなかった理由が証明できる書類、疾病にあつては検査当日の医師の診断書

ただし、生徒が新型コロナウイルス感染症に感染したことが判明した場合又は生徒が感染者の濃厚接触者に特定された場合等で欠席したときには、検査当日の医師の診断書は不要。

（ウ）追検査受検願提出者名簿（様式第8号）

ウ 志願先特別支援学校長

志願先特別支援学校長は、出身学校長から追検査受検願、大規模災害による罹災等にあつてはやむを得ず受検できなかった理由が証明できる書類（疾病にあつては検査当日の医師の診断書）及び追検査受検願提出者名簿の提出を受けたときは、その申請事由を審査し、必要事項を記載した追検査受検願提出者名簿の写しとともに、追検査受検承認（不承認）通知書（様式第9号）を出身学校長に交付する。

また、出身学校卒業後5年を超える者から同様の提出を受けたときは、その申請事由を審査し、追検査受検承認（不承認）通知書（様式第9号）を原則保護者に交付する。

(2) 選抜

二次募集に係る追検査は、出願書類を総合的に判断して令和4年3月23日（水）に合格者の決定を行う。

(3) 選抜の方法

特別支援学校長は、校長を委員長とする入学者選抜に関する委員会を設置して選抜を行うものとする。

(4) 選抜結果の発表

特別支援学校長は、合格者の発表を令和4年3月24日（木）に二次募集の手續に準じて行う。

第3 その他

1 教育相談の実施

特別支援学校は、出願期間前に教育相談を行うとともに、志願者は出願期間前に志願先の特別支援学校の教育相談を受けるものとする。この場合において、二校併願者は、両校の教育相談を受けるものとする。教育相談を行う期日、教育相談の内容・方法等は、特別支援学校長が別に定めるところによる。

なお、教育相談実施後、教育相談の内容に変更があった場合は、志願者は志願先の特別支援学校へ速やかに届け出ることとする。

2 特別な配慮

前項の教育相談で把握した志願者の実態により、特別支援学校長が入学者選抜において、志願者に特別な配慮が必要であると認めた場合、特別支援学校長は入学者選抜の公平性の確保に照らした上で、検査実施場所、検査時間等も含め、特別な配慮の実施内容を決定する。

3 学力検査受検上の留意事項

- (1) 学力検査時、検査場内の各自の席には、次の①から⑧のみ携行できる。なお、①から⑧以外の物品の携行が必要な場合は、下記(7)の手続を行うことで①から⑧以外の物品の携行が認められる場合がある。

①受検票

②鉛筆、シャープペンシル

③鉛筆削り

④消しゴム

⑤定規(分度器のついたもの、三角定規は不可)

⑥時計(辞書、計算、端末等の機能があるもの等は不可)

⑦ティッシュ(袋又は箱から中身だけ取り出したもの)

⑧点字盤、拡大鏡、書見台、鉛筆補助具といった日常的に使用している支援具

また、①から⑧についても、検査問題の解答上有利と考えられるものは携行できない。

なお、第1時限の検査開始前に検査場内に携帯電話等持込みを認められていないものを持ち込んでいることがわかった場合には、特別支援学校長は、受検者から預かり、検査の受検を認め、その日の検査終了後に返却する。

万一、検査開始後に、検査場内に携帯電話等持込みを認められていないものを持ち込んでいることが発覚した場合には不正行為とみなす。

- (2) 受検票は、机上の前方に置き、監督者が見やすいようにする。
- (3) 不正行為をしたときは退室となり、それまでの受検は一切無効とする。その後の受検も認められない。
- (4) 受検中は、他の受検者と話をするはもちろん、物品を貸借することも認められない。
- (5) 問題の内容にかかわる質問は認められない。ただし、印刷の不鮮明なものについては監督者に申し出ること。
- (6) その他、志願先特別支援学校長から指示がある場合には、それに従うこと。

(7)(1)に定める①から⑧以外の物品の携行が必要な場合の手続は、次のとおりとする。

ア 志願者

志願者は、入学者選抜に関する携行願(様式第20号)を作成し、志願する特別支援学校の中学部を卒業する見込みの者又は卒業した者は、志願先の特別支援学校長に提出し、その他の者は、出身学校長を経由して志願先の特別支援学校長に提出する。

出身学校卒業後5年を超える者については、一次募集(又は二次募集)の出願期間内に志願先の特別支援学校長に直接持参により提出するものとする。

イ 出身学校長

出身学校長は、志願者から提出された入学者選抜に関する携行願(様式第20号)を確認の上、一次募集(又は二次募集)の出願期間内に志願先の特別支援学校長に提出する。

また、出身学校長は、下記ウにより交付を受けた入学者選抜に関する携行願(様式第20号)を志願者に交付する。

ウ 志願先特別支援学校長

志願先特別支援学校長は、出身学校長から入学者選抜に関する携行願(様式第20号)の提出を受けたときは、その申請事由を審査し、承認・不承認を記入し押印の上、出身学校長に交付する。

なお、交付した写しは、各特別支援学校にて保管すること。

また、出身学校卒業後5年を超える者から同様の提出を受けたときは、その申請事由を審査し、入学者選抜に関する携行願承認・不承認を記入し押印の上、原則保護者に交付する。

4 身体障害者手帳又は療育手帳の交付を受けていない者の出願資格について

身体障害者手帳又は療育手帳の交付を受けていない者の出願資格の判断に当たっては、特別支援学校長が出願前に当該者の出願資格の有無を判断することとし、その手続を次のとおり定める。

(1) 特別支援学校長は、当該者に対して実態把握を行う教員を指名するとともに、別表第3「実態把握の観点」を参考にし、障害の状態等を的確に把握する。

(2) 特別支援学校長は、前記(1)に基づき把握した実態を特別支援教育課に報告するとともに、学校教育法施行令第22条の3に該当する視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者であるかどうかの判断をするに当たっては、特別支援教育課に協議を行うものとする。

(3) 特別支援学校長は、前記(2)に基づき判断した結果を、出願期間前までに特別支援教育課に報告する。

5 就学義務猶予免除者の高等部へ出願資格について

(1) 出願資格

学校教育法施行令第22条の3に該当する視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者であって、次のア又はイのいずれかの条件を満たす者が出願できる。

- ア 学校教育法施行規則第 95 条第 4 号に規定する就学義務猶予免除者等の中学校卒業程度認定規則により、中学校又は中学部を卒業した者と同等以上の学力があると認定された者
- イ 学校教育法施行規則第 95 条第 5 号の規定により、入学しようとする学校において、中学校又は中学部を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(2) 出願資格有無の判断

前記(1)イによって出願しようとする者に対しては、特別支援学校長が出願前に当該者の出願資格の有無を判断することとし、その手続を次のとおり定める。

- ア 就学義務猶予免除者と思われる者の高等部出願に当たっては、特別支援学校長は当該者又は保護者に対して事前に就学義務猶予免除者であることの証明を求める。
- イ 前記アにより就学義務猶予免除者であることが証明された場合、特別支援学校長は、当該者に対して実態把握を行う教員を指名するとともに、別表第 3「実態把握の観点」を参考にし、障害の状態等を的確に把握する。
- ウ 特別支援学校長は、前記イに基づき把握した実態を特別支援教育課に報告するとともに、中学部を卒業した者と同等以上の学力があると認められるかどうかの判断をするに当たっては、特別支援教育課の意見を聴くものとする。
- エ 特別支援学校長は、前記ウに基づき判断した結果を、出願期間前までに特別支援教育課に報告する。

6 普通科への過年齢者の入学について

特別支援学校長は、「特別支援学校の高等部普通科への過年齢者の入学許可基準について」に基づき、入学許可の判定を行うものとする。

7 出願期間等の変更

特別支援学校長は、志願者が県外者である等の特別な事由により出願期間等の変更が必要な場合、又は特別な事由による出願資格や特別な配慮等の判断が難しい場合は、特別支援教育課に協議を行うものとする。

8 専門教育を主とする学科の出願方法等

広島中央特別支援学校の保健理療科、専攻科理療科及び専攻科保健理療科における出願方法は、広島中央特別支援学校長が別に定める。また、就学区域外出願については、出身学校長意見書は必要としない。

9 広島北特別支援学校の出願手続等

広島北特別支援学校の出願手続等は別紙 5 によるものとする。

10 入学者選抜の結果に係る簡易開示

一次募集又は二次募集における学力検査、面接、作業・運動能力検査及び職業適性機能検査（以下「学力検査等」という。）の結果に係る簡易開示については、次のとおりとする。

(1) 開示対象

一次募集又は二次募集における学力検査等の結果

- (2) 開示内容
学力検査等における各教科等の得点及び合計
- (3) 開示請求対象者
一次募集又は二次募集の受検者のうち不合格者（本人又はその法定代理人（以下「本人等」という。））
- (4) 本人等であることの確認
別表第2に示す書類の提示により確認する。
- (5) 開示期間
 - ア 令和4年3月24日（木）から4月25日（月）まで（日曜日、土曜日及び学校が定める振替休日等を除く。）とする。
 - イ 受付時間は、原則として午前9時から午後4時まで（各特別支援学校の休憩時間を除く。）とする。
- (6) 開示場所
一次募集又は二次募集を受検した特別支援学校
- (7) 開示手続
 - ア 請求者は、別表第2に示す本人等であることを確認する書類を持参の上、一次募集又は二次募集を受検した特別支援学校において口頭で開示の請求をする。
 - イ 特別支援学校長は、前記書類により請求者が正当な請求者であることを確認した後、簡易開示請求受付処理簿（様式第18号）に必要事項を記入し、原則として閲覧により開示する。ただし、請求者が了解する場合は、口頭により開示することもできる。
- (8) 簡易開示実施状況報告
簡易開示を実施した特別支援学校長は、簡易開示請求受付処理簿（様式第18号）の写しを令和4年4月28日（木）までに特別支援教育課に提出する。

11 その他

- (1) 志願について虚偽の事実があることが確認されたときは、入学許可後であっても、入学を取り消すことがある。
- (2) 様式中の生年月日に係る部分は、外国人の場合にあっては、「昭和・平成 年 月 日生」とあるのは、「 年 月 日生」と読み替えるものとする。
なお、様式は、必要に応じてコピーして使用することができる。全ての様式について用紙の大きさは、日本産業規格A列4とする。
- (3) この要項に定めるもののほか、必要な事項については、広島県教育委員会教育長が別に定める。
- (4) 新型コロナウイルス感染症の状況によっては、本実施要項の内容を変更する場合がある。

〔別紙1〕

一次募集の「入学願書」、「調査書」及び「特別支援学校長が別に定める書類」の郵便による送付における未着事態への対応

1 郵便による送付期限日（令和4年2月17日（木））の対応

特別支援学校長は、出身学校長から出願書類の郵便による提出の連絡があったにもかかわらず、令和4年2月17日（木）午後4時の時点で出願書類が届かない場合、出身学校長に対して次のことを連絡し、依頼する。

- ① 出願書類が午後4時の時点で到着していないこと。
- ② 差出郵便局に対して郵便物の所在の確認を行い、その結果を特別支援学校長に報告すること。
- ③ 令和4年2月18日（金）正午までに届かない場合に備え、志願者名簿を再度2部作成し、簡易書留郵便物受領証の写しとともに、2月18日（金）正午までに持参により提出すること。
- ④ 令和4年2月18日（金）正午までに届かなかった場合、出願書類を2月21日（月）正午までに持参により再度提出すること。

2 提出期限日（令和4年2月18日（金））の対応

- (1) 特別支援学校長は、正午まで出願書類の到着を待つ。
- (2) 出身学校長は、正午までに志願者名簿2部及び簡易書留郵便物受領証の写しを持参により特別支援学校長に提出する。（これをもって出願書類の提出があったものとして扱う。）
- (3) 特別支援学校長は、正午になっても届かない場合、特別支援教育課にその旨を電話で連絡する。
- (4) 特別支援学校長は、特別支援教育課への連絡後、出身学校長に対して次のことを連絡し、依頼する。
 - ① 出願書類が提出期限までに届かなかったこと。
 - ② 差出郵便局に対して郵便物の所在の確認を行い、その結果を特別支援学校長に報告すること。
 - ③ 出願書類を再度作成し、令和4年2月21日（月）正午までに持参により提出すること。

3 提出期限の翌日（令和4年2月21日（月））の対応

出身学校長は、2（4）により、特別支援学校長から依頼があった場合、正午までに届かない場合、出願書類を持参により特別支援学校長に提出する。

4 その他

- (1) 再度作成された出願書類を受領した後、最初に送付された出願書類が特別支援学校に届いた場合、特別支援学校長はそれを出身学校長に返却する。
- (2) 簡易書留郵便が紛失した可能性がある場合、差出郵便局に調査を依頼することができる。

〔別紙2〕

諸報告

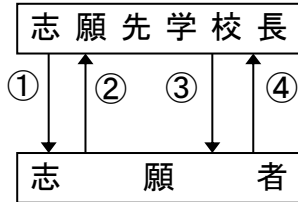
区分	内 容	特別支援学校長からの報告等		広島県教育委員会 ホームページ掲載予定
		様式	期 限	
一 次	志願者数	様式第10号	2月18日(金)午後1時30分	2月18日(金)
	出願状況報告	様式第11号	2月22日(火)	—
	3月7日(月)現在の受検者数	様式第10号	3月7日(月)正午	—
	3月8日(火)現在の受検者数		3月8日(火)正午	—
	一次募集に係る追検査受検承認者数	様式第10号	3月9日(水)午後1時30分	—
	新型コロナウイルス感染症に係る追検査受検承認者数	様式10号の2	3月9日(水)午後1時30分	—
	一次募集に係る追検査受検者数	様式第10号	3月11日(金)午後4時	—
	新型コロナウイルス感染症に係る追検査受検者数	様式第10号の2	3月23日(水)午後4時	—
	合格者数 辞退者数及び辞退理由	様式第10号	3月17日(木)午前10時	—
	新型コロナウイルス感染症に係る追検査合格者数 辞退者数及び辞退理由	様式第10号の2	3月29日(火)午後4時	—
二 次	二次募集の有無	—	—	3月17日(木)
	志願者数	様式第12号	3月22日(火)午後1時30分	3月22日(火)
	出願状況報告	様式第11号	3月23日(水)	—
	受検者数	様式第12号	3月23日(水)午後4時	—
	二次募集に係る追検査受検承認者数	様式第12号	3月23日(水)午後4時	—
	合格者数 辞退者数及び辞退理由	様式第12号	3月29日(火)午後4時	—
入学許可状況報告	管理規則施行細則 様式第10号	4月8日(金)	—	
簡易開示実施状況報告	様式第18号(写)	4月28日(木)	—	

- ・報告は全て電子メールにより特別支援教育課に行うこと。
- ・メールの送信については、定められた様式のみを送信すること。
- ・メールでの送信が不能な場合に限り、FAXにより送信すること。
- ・メール又はFAXは、別途通知するメールアドレス又はFAX番号に送信すること。
- ・管理規則施行細則とは、広島県立高等学校等管理規則施行細則のことをいう。
- ・出願期間等の変更を行った場合は、報告期限にかかわらず、報告内容が確定次第速やかに報告すること。

入学者選抜結果の通知以降の手続

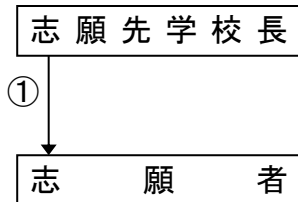
1 【志願先特別支援学校と出身学校が同一の者、出身学校卒業後5年を超える者及び専攻科に出願した者の場合】

(1) 合格の場合



- ① 「入学者選抜結果通知書」(様式第14号)の交付
※「請書・辞退届」(様式第15号)の添付
- ② 「請書・辞退届」(様式第15号)の提出
- ③ 入学許可
- ④ 宣誓書, 保護者の誓約書, 住民票記載事項証明書等の提出
(広島県立特別支援学校学則第16条)

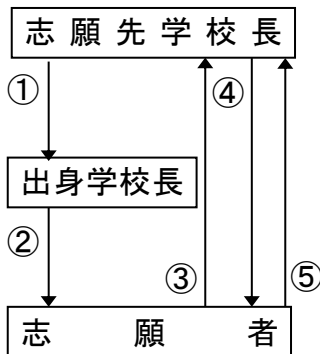
(2) 不合格の場合



- ① 「入学者選抜結果通知書」(様式第14号)の交付

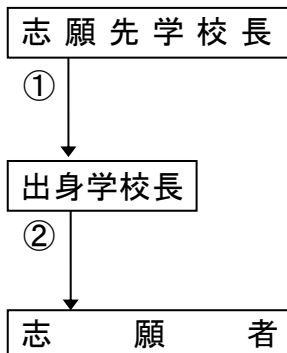
2 【1以外の者の場合】

(1) 合格の場合



- ① 「入学者選抜結果について(通知)」(様式第16号)の通知
※「入学者選抜結果通知書」(様式第14号)及び「請書・辞退届」(様式第15号)を添付
- ② 「入学者選抜結果通知書」(様式第14号)及び「請書・辞退届」(様式第15号)を交付
- ③ 「請書・辞退届」(様式第15号)の提出
- ④ 入学許可
- ⑤ 宣誓書, 保護者の誓約書, 住民票記載事項証明書等の提出
(広島県立特別支援学校学則第16条)

(2) 不合格の場合



- ① 「入学者選抜結果について(通知)」(様式第16号)の通知
※「入学者選抜結果通知書」(様式第14号)を添付
- ② 「入学者選抜結果通知書」(様式第14号)の交付

〔別紙4〕

令和4年度広島県立特別支援学校高等部入学者選抜における
新型コロナウイルス感染症への対応について

一次募集の選抜における新型コロナウイルス感染症への対応については、次のとおりとする。

1 対応方針

生徒が新型コロナウイルス感染症に感染したことが判明した場合又は生徒が感染者の濃厚接触者に特定された場合等で、一次募集の選抜を欠席した者を対象として、追検査（新型コロナウイルス感染症に係る追検査）を実施する。

2 新型コロナウイルス感染症に係る追検査の手続

(1) 対象者

生徒が新型コロナウイルス感染症に感染したことが判明した場合又は生徒が感染者の濃厚接触者に特定された場合等で、一次募集の選抜を欠席した者（当該出席停止等の期間が一次募集の選抜を含むこと。）のうち、3月11日（金）の一次募集に係る追検査を受検できない者。

なお、普通科（職業コースを除く。）の志願者については、必要に応じて別に定める。

(2) 手続

志願者及び出身学校長は一次募集に係る追検査の手続を行う。なお、検査当日の医師の診断書は必要ない。

志願先特別支援学校長は、出身学校長から新型コロナウイルス感染症に係る追検査の手続が行われた場合には、特別支援教育課に報告する。

3 新型コロナウイルス感染症に係る追検査の実施

(1) 実施期日

令和4年3月23日（水） ※ 二次募集の選抜と同日

(2) 集合及び開始の時刻

対象校の校長が別に定める。

(3) 実施場所

志願先特別支援学校

(4) 検査方法

対象校が定める一次募集の選抜の追検査における検査方法に準じて実施する。

(5) 定員

若干名とする。

(6) 選抜の方法

一次募集の手續に準ずるものとする。

(7) 選抜結果の発表

令和4年3月24日(木)に、一次募集の手續に準じて行う。

4 やむを得ない事由による欠席者の取扱い

検査当日の特別な配慮によっても対応できず、やむを得ず普通科職業コースの新型コロナウイルス感染症に係る追検査を欠席した者のうち普通科(職業コースを除く。)を併願した者については、欠席した事由が次の表に該当し、志願先特別支援学校長が審査し正当と認められた場合に限り、普通科(職業コースを除く。)において新型コロナウイルス感染症に係る追検査の追検査を受検することができる。

その場合の手續等については、「第2 二次募集」の「8 やむを得ない事由による欠席者の取扱い」に準ずるものとする。

	事 由
大規模災害による罹災等	○検査当日の風水震火災その他の非常災害による交通遮断等。
疾 病	○学校保健安全法施行規則第18条において学校において予防すべき感染症に指定されている疾病等(新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者に特定された場合を含む。)

5 その他

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、今後も必要に応じて追加的な措置を実施する場合がある。

広島北特別支援学校の出願方法等

第１ 一次募集

１ 出願手続

(１) 出願書類

ア 調査書（出身学校卒業後５年を超える者については、卒業証明書）

特別支援学校長は、調査書に障害の状況及び性別を記載する欄を必ず設けること。また、出席等に係る日数の記載欄を設ける場合には、欠席の日数及びその主な理由を記載する欄のみ設けること。

障害の状況の記載事項については、別表第３「実態把握の観点」を参考とすること。

イ 広島北特別支援学校長が別に定める書類

ウ 入学併願書（二校併願者のみ）

(２) 期間

ア 出願登録

令和４年２月８日（火）から２月１８日（金）正午まで

イ 出願書類受付

令和４年２月１５日（火）から２月１８日（金）正午まで

出身学校長が郵便により提出する場合には、簡易書留郵便により、２月１７日（木）までに必着するよう提出すること。また、出身学校長は郵送後、電話により速やかに提出先の広島北特別支援学校長に郵送した旨の連絡を行うこと。

(３) 方法

ア 志願者

(ア) 志願者は、(２)アの期間内にインターネット出願システムで出願登録を行う。

インターネット出願に関する詳細は、広島北特別支援学校の入学者選抜実施要項により公表する。

(イ) 二校併願者は、入学併願書を作成し、出身学校長を經由して広島北特別支援学校長に提出する。ただし、出身学校卒業後５年を超える者については、(２)イの期間内に広島北特別支援学校長に直接持参により提出するものとする。

イ 出身学校長

(ア) 出身学校長は、インターネット出願システムで、志願者の出願登録の内容について確認した後、(２)アの期間内に確認登録を行う。インターネット出願に関する詳細は、広島北特別支援学校の入学者選抜実施要項により公表する。

(イ) 出身学校長は、二校併願者から入学併願書の提出を受けたときは、記載事項に誤りがないことを確認の上、出願書類を(２)イの期間内に広島北特別支援学校長に提出する。

ウ 広島北特別支援学校長

(ア) 広島北特別支援学校長は、出願書類の提出を受けたときは、この要項に定める要件を備えていることを確認の上、これを受理し、インターネット出願システムで書類の受取登録を行う。

また、インターネット出願システムで、志願者の出願登録の内容について、この要項に定める要件を備えていることを確認する。

(イ) 書類の受取登録及び出願登録の内容について確認した広島北特別支援学校長は、インターネット出願システムで承認登録を行う。

なお、出願登録を行っているが書類等を提出しない場合又は書類等を提出しているが出願登録を行っていない場合は、志願していないものとみなす。

(ウ) 入学併願書を受取したときは、入学併願書の写しとその他の出願書類を保管するとともに、当該入学併願書にその志願者の出願書類（入学併願書を除く。）の写し及びインターネット出願システムから抽出した出願情報を添付して広島特別支援学校長へ遅滞なく送付するものとする。

(エ) 二校併願者の入学併願書及び出願書類（入学併願書を除く）の写し及びインターネット出願システムから抽出した出願情報を受領した広島特別支援学校長は、入学併願書に受付番号を記入して二校併願者の内、自校の生徒、卒業生及び出身学校卒業後5年を超える者については二校併願者に、その他の二校併願者については出身学校長に、その写しを交付するものとする。

エ その他

(ア) 出身学校長から広島北特別支援学校長に、郵送による出願書類の提出を行った旨の電話連絡があった場合、広島北特別支援学校長はその連絡があった日時及び出身学校の対応者名を出願書類郵送連絡記録簿（様式第17号）に記録すること。

(イ) 郵便による提出を行う旨の連絡があった出身学校から出願書類が届いた場合、広島北特別支援学校長は、出身学校長にその旨を電話連絡し、その連絡をした日時及び出身学校の対応者名を様式第17号に記録すること。

(ウ) 広島北特別支援学校長は、郵便による出願書類の提出の連絡があったにもかかわらず令和4年2月17日（木）午後4時までに届かなかった場合、「一次募集の『入学願書』、『調査書』及び『特別支援学校長が別に定める書類』の郵便による送付における未着事態への対応」（別紙1）により対応する。その場合、「『入学願書』、『調査書』及び『特別支援学校長が別に定める書類』」は「出願書類」に読み替えるものとする。

(4) 就学区域外出願

ア 教育委員会の許可が必要な場合

本文の「第1 一次募集」「6 出願手続」「(4) 就学区域外出願」「ア 教育委員会の許可が必要な場合」に準ずるものとする。

イ 教育委員会の許可が不要な場合

本文の「第1 一次募集」「5 出願資格」(1)アの(ア)から(ウ)までのいずれかに該当する者で、保護者が、令和4年2月15日（火）現在、単身赴任などで広島北特別支援学校の就学区域内に居住し、入学後も保護者の住所に変更がない場合は、次の手続を行う。

(ア) 出身学校の所在地が県外の場合にのみ、就学区域外出願報告書（様式第19号）を、令和4年2月4日（金）までに特別支援教育課に提出する。

(イ) 出身学校長意見書（様式第4号）及び保護者並びに志願者の住民票記載事項証明書を、(2)イの出願書類受付期間内に広島北特別支援学校長に提出する。

2 やむを得ない事由による欠席者の取扱い

本文の「第1 一次募集」「8 やむを得ない事由による欠席者の取扱い」に準ずるものとする。

第2 二次募集

1 出願手続

(1) 出願書類

一次募集に準ずるものとする。

なお、出身学校長は、志願者が二次募集の「5 出願資格」の(2)に該当する者であることを確認の上、出願書類の提出をすること。

(2) 期間

ア 出願登録

令和4年3月17日(木)午後3時から3月22日(火)正午まで

イ 出願書類受付

令和4年3月18日(金)から3月22日(火)正午まで

なお、原則、郵便による提出はできないこととする。

(3) 方法

一次募集の手続に準ずるものとする。

(4) 就学区域外出願

教育委員会の就学区域外出願の許可が必要となる志願者については、特別支援教育課の判断に従って手続を行うこととする。

2 やむを得ない事由による欠席者の取扱い

本文の「第2 二次募集」「8 やむを得ない事由による欠席者の取扱い」に準ずるものとする。

〔別表第1〕

就学区域外出願に係る提出書類

出願理由 必要書類	地理的 条件	身体的 事由	転 居	特 別 の 事 情 他
就学区域外出願許可願（様式第3号）	○	○	○	○
居住確約書（様式第6号）			○	客観的事実を証明できるもの
保護者及び志願者の住民票記載事項証明書	○	○	○	
関係地域の地図，就学区域内及び志願先学校までの距離，交通機関状況等	○			
医師の診断書等		○		
出身学校長意見書（様式第4号） （専門教育を主とする学科へ出願する場合は不要）	○	○	○	○
志願先特別支援学校長意見書（様式第5号）	○	○	○	○

※ 志願者が福祉施設等に入所し，保護者が当該施設の長等である場合など，特別な事情がある場合は特別支援教育課に相談すること。

〔別表第2〕

簡易開示において本人等であることを確認する書類

請求者	区分	必要書類
受検者本人	請求者が受検者本人であることを確認する書類 ※ 写真のない書類にあっては複数の書類の提示により確認すること。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出身中学校の生徒証明証 ○ 特別支援学校の生徒証明証等の在籍する学校の証明証 ○ 個人番号カード（マイナンバーカード） ○ 運転免許証 ○ 旅券 ○ 健康保険，国民健康保険又は船員保険の被保険者証 ○ 官公署の発行する身分証明書 ○ その他下欄に掲げる書類 等
受検者の法定代理人（親権者等）	ア 請求者が法定代理人本人であることを確認する書類 ※ 写真のない書類にあっては複数の書類の提示により確認すること。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人番号カード（マイナンバーカード） ○ 運転免許証 ○ 旅券 ○ 健康保険，国民健康保険又は船員保険の被保険者証 ○ 共済組合員証 ○ 国民年金手帳 ○ 厚生年金手帳 ○ 国民年金，厚生年金保険又は船員保険に係る年金証書 ○ 共済年金又は恩給等の証書 ○ 船員手帳 ○ 海技免状 ○ 猟銃・空気銃所持許可証 ○ 戦傷病者手帳 ○ 宅地建物取引士証 ○ 電気工事士免状 ○ 無線従事者免許証 ○ 毒物劇物販売業登録票 ○ 官公署の発行する身分証明書 ○ 印鑑登録証明書（印鑑登録手帳） ○ 上記書類が更新中の場合に交付される仮証明書や引換書類 ○ 外国政府が発行する外国旅券 等
	イ 受検者が未成年者又は成年被後見人であることを確認する書類	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸籍謄本・抄本（発行後1か月以内のもの） ○ 住民票の写し（発行後1か月以内のもの）
	ウ 請求者が法定代理人であることを確認する書類	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭裁判所の証明書（発行後1か月以内のもの） 等

（注）受検者の法定代理人の場合，区分におけるア，イ及びウの全てに係る書類が必要である。

〔別表第3〕

実態把握の観点

【視覚障害】

観点	内容
眼疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診断名（眼疾患名） ・ 眼疾患発症の時期，失明の時期 ・ 眼疾患の進行性の有無 ・ 視覚管理上の配慮事項
視機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視力（遠距離視力，近距離視力，最大視認力） ・ 視野障害の有無（求心性，中心性） ・ 光覚等（明順応障害・暗順応障害の有無） ・ 眼鏡等の使用（矯正眼鏡，遮光眼鏡，コンタクトレンズ）
視覚補助具等の使用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弱視レンズの使用（遠用・近用） ・ 拡大読書器の使用 ・ 照明器具の使用
障害に応じた特別な指導の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 点字や漢字の読み書きに関する指導 ・ 視覚補助具の活用に関する指導 ・ 白杖歩行に関する指導 ・ 保有する視覚の活用に関する指導 ・ コンピュータ等の情報機器の活用に関する指導 ・ 日常生活の技能に関する指導
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の理解 ・ 環境の把握や視覚，触覚，聴覚による認知の状態 ・ 視覚障害以外の障害の有無と障害種・程度

【聴覚障害】

観点	内容
聴覚疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診断名（聴覚疾患名；感音性，混合性，伝音性） ・ 聴覚疾患発症の時期，失聴の時期 ・ 聴覚疾患の進行性の有無 ・ 聴覚管理上の配慮事項
聴覚機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両耳の聴力レベル ・ 話し声の理解の状況
補聴器等の使用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両耳，片耳，人工内耳 ・ 装用閾値
障害に応じた特別な指導の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保有する聴覚の活用に関する指導 ・ 日常の話し言葉に関する指導 ・ 発音・発語に関する指導 ・ 状況に応じたコミュニケーションに関する指導 ・ コンピュータ等の情報機器の活用に関する指導 ・ 日常生活の技能に関する指導
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の理解 ・ 環境の把握や視覚，聴覚，触覚，振動覚による認知の状態 ・ 聴覚障害以外の障害の有無と障害種・程度

【知的障害】

観点	内容
知的障害に関する診断等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診断名 ・ 医療的な配慮事項，服薬の要否等
知的機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知能（発達）検査等の結果
適応機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション，言葉の状態（日常の会話や簡単な指示の理解，文字や数への関心など） ・ 身辺処理等の状態（食事，衣服の着脱，排泄，片付けなど） ・ 対人関係，行動特徴（他人への関わり，きまりの理解，危険の回避，多動性・こだわりの有無など）
障害に応じた特別な指導の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の技能に関する指導 ・ 特別な教育課程の編成
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の理解 ・ 知的障害以外の障害の有無と障害種・程度

【肢体不自由】

観点	内容
肢体不自由の状態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診断名 ・ 発症の時期 ・ 体幹・上肢・下肢の状態（補装具の要否，座位の保持，筆記・歩行の可否） ・ 医療面の配慮・管理事項（健康状態の安定度，てんかん発作の有無と頻度，服薬の要否，医療的ケアの必要性）
日常生活動作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事，衣服の着脱，排泄等の状態 ・ 移動手段（自力歩行，車椅子，電動車椅子，松葉杖，歩行器等）の状況
コミュニケーション手段	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し言葉，筆談，コンピュータ等の活用
障害に応じた特別な指導の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体の動きや意思の表出に係る補助用具の活用に関する事項 ・ コンピュータ等の情報機器の活用に関する事項 ・ 身体の動きに関する指導
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の理解 ・ 目と手の協応動作などの視知覚・感覚の発達，手指の巧緻性，両手の協応動作 ・ 肢体不自由以外の障害の有無と障害種・程度

【病弱・身体虚弱】

観点	内容
病弱・身体虚弱の状態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診断名 ・ 病気の程度 ・ 入院を要する期間 ・ 生活規制の程度 ・ 学習時間の制限 ・ 運動・食事等の制限 ・ 回復・改善等への意欲 ・ 身体及び知的発達の遅滞の程度
障害に応じた特別な指導の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータ等の情報機器の活用に関する事項 ・ 健康の保持，心理的な安定に関する指導
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の理解 ・ 病弱・身体虚弱以外の障害の有無と障害種・程度

一次募集 ・ 二次募集		令和 年 月 日		
広島県立 (特別支援学校長様 分校・分級・分教室)		
		志願者 保護者		
次のとおり, 高等部 科(コース)第1学年への入学を志願します。				
志願者	ふりがな 氏 名			昭和 平成 年 月 日生
	現住所	(〒 -)		
保護者	ふりがな 氏 名			志願者との 続 柄
	現住所	(〒 -)		
志願者 学歴	学 校 名		年 月	卒業・その他
	中学部 中学校 第3学年		昭和 平成 令和 年 月	卒業 卒業(修了)見込
選抜(Ⅱ) 出願 高等学校	高等学校名	課程	学科・コース	受検番号
	(分校)	全日 定時 フレキシブル	科 コース	

(志願者が成年の場合の作成上の注意)
様式中「保護者」とあるのは保証人を指します。

(記入上の留意事項)

- 1 必要な文字を○で囲む。現住所は、都道府県名から記入する。
- 2 出身学校長は、記載事項及び内容を確認し、提出する。
- 3 普通科職業コースに出願する場合は、括弧内に(職業コース)と記入し、普通科職業コース以外に出願する場合は、(コース)内を記入しない。
- 4 ※印の欄は記入しない。
- 5 専攻科に出願する場合は、志願者学歴欄に特別支援学校高等部又は高等学校に係る学歴を記入する。
- 6 選抜(Ⅱ)出願高等学校欄は、二次募集に志願する者で、広島県公立高等学校入学者選抜の選抜(Ⅱ)の一般学力検査結果を活用する特別支援学校に提出する場合に記入する。
- 7 誤りを訂正する場合は、取り消し線(黒)を1本あるいは2本引く。訂正印は必要ない。
- 8 出身学校卒業後5年を超える者については、出身学校長による確認は不要とする。

※受付印
※受付番号

入学併願書

令和 年 月 日

広島県立広島北特別支援学校校長様
広島県立広島特別支援学校校長様

出身学校名 _____

志願者氏名 _____

保護者氏名 _____

広島県立広島北特別支援学校高等部普通科職業コースの合格者とならなかった場合は、広島県立広島特別支援学校高等部普通科への入学を志願します。

(志願者が成年の場合の作成上の注意)
様式中「保護者」とあるのは保証人を指します。

[留意事項]

- この入学併願書は、その写しを広島北特別支援学校校長が保管し、当該入学併願書に出願書類(入学併願書を除く。)の写しを添付して広島特別支援学校校長へ送付すること。
- 志願者は※印の欄を記入しない。

※広島特別支援学校受付番号

志 願 者 名 簿

04

令和 年 月 日

広島県立 _____ 特別支援学校長様

_____ 学校長 印

本校 分級	分校 分教室	志願学科等	科 コース
氏 名			※ 受付番号
計			人

() 枚中の () 枚目

[注意]

- 1 本校・分校・分級・分教室別，志願学科・コース別に，それぞれ2部作成する。
 なお，志願学科は，第1希望を記入する。
- 2 必要な文字を○で囲む。
- 3 ※印の欄には記入しない。

特 別 支 援 学 校 受 付 印
※

就学区域外出願許可願

令和 年 月 日

広島県教育委員会教育長様
(特別支援教育課)

出身学校名 _____

昭和
平成 年 月卒業見込・卒業
(修了見込)
令和

〒 _____

学校所在地 _____

志願者氏名 _____

保護者氏名 _____

志願者との続柄 ()

〒 _____

現住所 _____

電話番号 _____

次のとおり、就学区域外出願を許可してください。

出願を希望する学校	広島県立 _____ 特別支援学校
理由	

就学区域外出願許可願
(日本国内における外国人学校からの出願)

令和 年 月 日

広島県教育委員会教育長様
(特別支援教育課)

出身学校名 _____

昭和
平成 年 月修了見込・修了
令和

〒 _____

学校所在地 _____

志願者氏名 _____

保護者氏名 _____

志願者との続柄 ()

〒 _____

現住所 _____

電話番号 _____

日本国内において、外国人学校の教育により9年の課程を令和4年3月31日までに修了又は修了する見込みの外国人で、令和4年3月31日までに満15歳以上に達する者であるため、貴教育委員会所管の特別支援学校への出願を許可してください。

なお、入学後は次の住所に居住する予定である。

〒 _____

住所 _____

[注意] 出願する予定の選抜について、下表右欄に○印をすること。

一次募集	
二次募集	

出身学校長意見書

令和 年 月 日

広島県教育委員会教育長様
(特別支援教育課)

出身学校名 _____

出身学校長 _____ 印

〒 _____

学校所在地 _____

電 話 _____

次の者が広島県立_____特別支援学校に出願を希望しておりますので、就学区域外出願を許可してください。

志願者氏名		生年月日	昭和 平成	年	月	日
保護者氏名		志願者 との続柄				
現住所						
理由						

志願先特別支援学校長意見書

令和 年 月 日

広島県教育委員会教育長様
（特別支援教育課）

志願先特別支援学校長 _____ 印

次の者は、本校に出願を希望しており、就学区域外出願の資格を有するものと判断します。

出身学校名			
志願者氏名		生年月日	昭和 平成 年 月 日
保護者氏名		志願者 との続柄	
現住所			
所見	主たる障害種（ ）		

居 住 確 約 書

令和 年 月 日

広島県教育委員会教育長様
(特別支援教育課)

志願者氏名 _____

保護者氏名 _____

現 住 所 _____

私は、令和 年 月 日から、次の転居先に居住することを確約します。

転居先

理 由

追検査受検願

令和 年 月 日

_____ 特別支援学校長様

出身学校名 _____

志願者氏名 _____

保護者氏名 _____

この度、(一次募集 ・ 二次募集 ・ 新型コロナウイルス感染症に係る追検査) を次の理由により、受検することができませんでしたので、追検査の受検を承認してください。

1 理 由

2 志願学科等

本校 分校 分級 分教室	学科・コース	受付番号
		科 コース

上記について相違ないことを証明します。

_____ 学校長氏名 _____ 印

受付番号	※	特別支援学校受付印
		※

- [注意]
- ※印の欄には記入しない。
 - 必要な文字を○で囲むこと。
 - 出身学校卒業後5年を超える者については、出身学校長による記入は不要とする。

追検査受検願提出者名簿

令和 年 月 日

_____ 特別支援学校長様

_____ 学校長

貴校の（ 一次募集 ・ 二次募集 ・ 新型コロナウイルス感染症に係る追検査 ）
の追検査を希望している者は、次のとおりです。

本校 分級	分校 分教室	学科・コース	受付番号	氏名	※ 区 分	※ 備 考
		科 コース				承認・不承認

- [注意] 1 ※印欄については記入しないこと。
2 必要な文字を○で囲むこと。

_____ 学校長様

上記の者の追検査の受検の承認（不承認）については、区分欄に記載のとおりですので、
該当者に別紙「追検査受検承認（不承認）通知書」を速やかに交付してください。

また、承認者が一次募集に係る追検査又は新型コロナウイルス感染症に係る追検査を受
検する場合は、承認者に対して、追検査当日、当該通知書を携行するよう周知してくださ
い。

令和 年 月 日

_____ 特別支援学校長

- [注意] 1 区分欄の「承認」又は「不承認」のいずれかを○で囲むこと。
2 承認できない者については、備考欄に理由を記載すること。
3 特別支援学校においては、提出された原本を保管すること。

[様式第9号]

追検査受検承認（不承認）通知書

04

令和 年 月 日

受付番号 _____ 番

_____ 様

_____ 特別支援学校長

令和 年 月 日付けで申請のあった（ 一次募集 ・ 二次募集 ・ 新型コロナウイルス感染症に係る追検査 ）の追検査の受検については、次のとおりです。

1 承認します。

2 承認できません。

【承認できない理由】 _____

[注] 「1 承認します。」又は「2 承認できません。」のいずれかを○で囲み、承認できない場合は、その理由を記載すること。

（注意） 一次募集に係る追検査又は新型コロナウイルス感染症に係る追検査を受検する場合は、追検査当日、この通知書を検査会場へ携行し、受付で提示してください。

教 育 長 様
(特別支援教育課)

広島県立 _____ 特別支援学校長
_____ 分校・分級・分教室

志 願 者 数 等 報 告 (一 次 募 集)

	2月18日 正午現在 志願者数(人)	3月7日 受検者数(人)	3月8日 受検者数(人)	追検査		3月15日 合格者数(人)	3月16日 午後4時現在	
				3月9日 受検承認者数(人)	3月11日 受検者数(人)		辞退者数(人)	辞退理由
普通科 (職業コースを除く。)						《 》	《 》	
普通科 職業コース	() 【 】	() 【 】	() 【 】	() 【 】	() 【 】	() 【 】	() 【 】	
保健医療科								
専攻科 理療科	()	()	()	()	()	()	()	
専攻科 保健医療科								
電子メール 送信期限	2月18日 午後1時30分	3月7日 正午	3月8日 正午	3月9日 午後1時30分	3月11日 午後4時			3月17日 午前10時

[記入上の留意事項]

- ・ 本校, 分校, 分級, 分教室ごとに作成すること。
- ・ 普通科(職業コースを除く。)の欄の志願者数, 受検者数には職業コースの併願者数を含まないこと。
- ・ 《 》内には広島北特別支援学校高等部普通科職業コースとの併願者数を内数で記入すること。
- ・ ()内には普通科職業コースと普通科, 又は専攻科理療科と専攻科保健医療科との併願者数を内数で記入すること。
- ・ 【 】内には広島特別支援学校高等部普通科との併願者数を内数で記入すること。
- ・ 出願期間等の変更を行った場合は, 送信期限に関わらず, 報告内容が確定次第速やかに送信すること。
- ・ 「辞退理由」の欄は, 印刷時に文字切れ等がないよう, 縦幅を調整すること。
- ・ 3月7日のみを実施日として, 3月8日に選抜を行わない学校についても, 受検者数(人)を0で報告すること。
- ・ 志願者数又は受検者数が「0」となった科については, その後の記載を要しない。また, 全ての科において志願者数又は受検者数が「0」となった学校, 分校, 分級, 分教室についてはその後の報告は要しない。ただし, 併願での合格者数については除く。
- ・ 追検査に係る報告は, 普通科職業コース又は専門教育を主とする学科の一次募集を実施する学校のみ行うこと。また, 追検査受検承認者数が「0」となる科については, 追検査受検数の報告を要しない。

[様式第10号の2]

令和 年 月 日

教 育 長 様
(特別支援教育課)

広島県立 _____ 特別支援学校長
_____ 分校・分級・分教室

新型コロナウイルス感染症に係る追検査受検承認者数等報告(一次募集)

	3月9日	3月23日	追検査 3月23日	3月24日	3月29日 正午現在	
	受検承認者数(人)	受検者数(人)	受検承認者数(人)	合格者数(人)	辞退者数(人)	辞退理由
普通科 (職業コースを除く。)			《 》	《 》	《 》	
普通科 職業コース	() 【 】	() 【 】	() 【 】	() 【 】	() 【 】	
保健医療科						
専攻科 理療科	()	()	()	()	()	
専攻科 保健医療科						
電子メール 送信期限	3月10日 午後1時30分	3月23日 午後4時	3月23日 午後4時			3月29日 午後4時

[記入上の留意事項]

- 普通科職業コース又は専門教育を主とする学科の一次募集を実施する学校のみ行うこと。また、追検査受検承認者数が「0」となる科については、受検者数の報告を要しない。
- 普通科(職業コースを除く。)の欄の志願者数、受検者数には職業コースの併願者数を含まないこと。
- 《 》内には広島北特別支援学校高等部普通科職業コースとの併願者数を内数で記入すること。
- ()内には普通科職業コースと普通科、又は専攻科理療科と専攻科保健医療科との併願者数を内数で記入すること。
- 【 】内には広島特別支援学校高等部普通科との併願者数を内数で記入すること。
- 出願期間等の変更を行った場合は、送信期限に関わらず、報告内容が確定次第速やかに送信すること。
- 「辞退理由」の欄は、印刷時に文字切れ等がないよう、縦幅を調整すること。
- 受検者数が「0」となった科については、その後の記載を要しない。また、全ての科において志願者数又は受検者数が「0」となった学校については、その後の報告は要しない。ただし、併願での合格者数については除く。

教 育 長 様
(特別支援教育課)

広島県立 _____ 特別支援学校長
_____ 分校・分級・分教室

出 願 状 況 報 告 (_____ 科)

募集区分						
No.	志願者氏名	出身学校名	学級	生年月日	障害の状況	その他
				昭和 ・ 平成 年 月 日		
				昭和 ・ 平成 年 月 日		
				昭和 ・ 平成 年 月 日		
				昭和 ・ 平成 年 月 日		
				昭和 ・ 平成 年 月 日		

〔記入上の留意事項〕

- ・ 本校, 分校, 分級, 分教室ごとに作成すること。
- ・ 「募集区分」の欄は, 「一次募集」・「二次募集」のいずれかをリストから選択すること。ただし, 志願者がいない場合は報告を要しない。
- ・ 「No.」の欄は, 通し番号を記入する。
- ・ 「学級」の欄は, リストの中から該当するものを選択すること。中学校出身者のうち特別支援学級の場合は, 学級の種類についても記載すること。
- ・ 「障害の状況」の欄は, 身体障害者手帳, 療育手帳の交付状況等を記入すること。また, 印刷時に文字切れ等がないよう, 縦幅を調整すること。
- ・ 「その他」の欄は, 高等学校の入学者選抜に出願した者, 職業コースで普通科又は広島特別支援学校を併願している者, 専攻科理療科で専攻科保健理療科を併願している者について出願状況を記入する。 【記入例】選抜(Ⅰ), 普通科併願, 広島特支併願, 専攻科保健理療科併願
- ・ 職業コースについては, 別葉で作成する。

教 育 長 様
(特別支援教育課)

広島県立 _____ 特別支援学校長
_____ 分校・分級・分教室

志 願 者 数 等 報 告 (二 次 募 集)

	3月22日 正午現在 志願者数(人)	3月23日 受検者数(人)	追検査		3月24日 合格者数(人)	3月29日 正午現在 辞退者数(人)	辞退理由
			3月23日 受検承認者数(人)				
普通科 (職業コースを除く。)					《 》	《 》	
普通科 職業コース	() 【 】	() 【 】	/		() 【 】	() 【 】	
保健理療科			/				
専攻科 理療科	()	()	/		()	()	
専攻科 保健理療科			/				
電子メール 送信期限	3月22日 午後1時30分	3月23日 午後4時	3月23日 午後4時			3月29日 午後4時	

[記入上の留意事項]

- ・ 本校, 分校, 分級, 分教室ごとに作成すること。
- ・ 志願者数は0の場合も含め, 必ず報告すること。
- ・ 普通科(職業コースを除く。)の欄の志願者数, 受検者数には職業コースの併願者数を含まないこと。
- ・ 《 》内には広島北特別支援学校普通科職業コースとの併願者数を内数で記入すること。
- ・ ()内には普通科職業コースと普通科, 又は専攻科理療科と専攻科保健理療科との併願者数を内数で記入すること。
- ・ 【 】内には広島特別支援学校普通科との併願者数を内数で記入すること。
- ・ 出願期間等の変更を行った場合は, 送信期限に関わらず, 報告内容が確定次第速やかに送信すること。
- ・ 「辞退理由」の欄は, 印刷時に文字切れ等がないよう, 縦幅を調整すること。
- ・ 志願者数又は受検者数が「0」となった科については, その後の報告を要しない。また, 全ての科において志願者数又は受検者数が「0」となった学校, 分校, 分級, 分教室については, その後の報告は要しない。ただし, 併願での合格者数については除く。

取扱注意

選抜(Ⅱ)の一般学力検査結果について

令和 年 月 日

_____ 特別支援学校長

印

このことについて、次の受検者が本校の特別支援学校高等部入学者選抜二次募集を志願しております。ついては、当該の受検者の選抜(Ⅱ)における一般学力検査の証明をしてください。

課程	本・分校	学科・コース名	受検番号	出身中学校名	受検者氏名	一般学力検査点(※)					追検査 受検
						国語	社会	数学	理科	英語	

上記のとおり証明します。

令和 年 月 日

_____ 高等学校長

印

- (注) 1 この様式は、特別支援学校高等部入学者選抜二次募集を実施する特別支援学校で、選抜(Ⅱ)の一般学力検査の結果を活用する特別支援学校長が、志願者から提出された入学願書をもとに作成すること。
 2 この様式を受けた高等学校長は、(※)欄に該当の受検者の一般学力検査点の証明をすること(各教科の得点は、50点満点で記入すること。)
 3 追検査の受検者については、追検査受検の欄に○を記入すること。
 4 この文書の取扱いについては、特別支援学校長及び高等学校長間で連携し、資料の内容が他に漏れることのないよう十分に留意し、送付は校長宛での親展とすること。

入学者選抜結果通知書

令和 年 月 日

出身学校名 _____

志願者氏名 _____ 様

広島県立 _____ 特別支援学校長 印

あなたは、入学者選抜の結果、本校高等部 _____ 科に〔合格した・不合格でした〕の
で通知します。

ついては、合格者は、別紙「請書・辞退届」を提出してください。

なお、「請書・辞退届」について、「請書」の場合は、令和4年 月 日（ ）正午、「辞
退届」は令和4年 月 日（ ）〔午後4時・正午〕が締切りとなっておりますので、御注
意ください。

- ※ [] 中は、該当する語のみを記載すること。
- ※ 波線部は、合格者への通知のみに記載すること。
- ※ 職業コース志願者への通知は、「 _____ 科」とあるのは、「普通科職業コース」と記載すること。
- ※ 請書・辞退届の提出期限は要項で定める期限と時刻を入れて通知すること。

請 書 ・ 辞 退 届

※いずれか該当しない方を二重線で消すこと。

令和 年 月 日

広島県立_____特別支援学校長様

出身学校名_____

本人氏名_____

保護者氏名_____

この度、本人が貴校高等部_____科（_____コース）に合格しましたが、

- 相違なく入学します。
- 入学を辞退します。

※いずれか該当しない方を二重線で消すこと。

辞退理由（ _____ ）

[様式第 16 号]

(志願先特別支援学校と出身学校が異なる場合 (出身学校卒業後 5 年を超える者及び専攻科に出席した者を除く))



令和 年 月 日

(出身 学 校) 長様

広島県立 _____ 特別支援学校長



入学者選抜結果について (通知)

貴校からの志願者について、次のとおり決定しました。

ついては、別紙「入学者選抜結果通知書」を志願者本人に交付するとともに、合格者に「請書・辞退届」を、志願先の特別支援学校長に提出させてください。

なお、「請書・辞退届」について、「請書」の場合は、令和 4 年 月 日 () 正午、「辞退届」は令和 4 年 月 日 () [午後 4 時・正午] が締切りとなっておりますので、御注意ください。

氏 名	入学者選抜結果 (合格・不合格の別)

※ [] の中は、該当する語のみを記載すること。

※ 志願者本人宛て「入学者選抜結果通知書」及び合格者から提出させる「請書・辞退届」の様式を添付する。

※ 請書・辞退届の提出期限は要項で定める期限と時刻を入れて通知すること。

出 願 書 類 郵 送 連 絡 記 録 簿

対 象 書 類 名	一次募集出願書類
郵 送 期 限	令和 4 年 2 月 17 日 (木)

No.	出身学校名	郵送連絡受信日時	出身学校 応対者名	到着連絡発信日時	出身学校 応対者名
		月 日 時 分		月 日 時 分	
		月 日 時 分		月 日 時 分	
		月 日 時 分		月 日 時 分	
		月 日 時 分		月 日 時 分	
		月 日 時 分		月 日 時 分	
		月 日 時 分		月 日 時 分	
		月 日 時 分		月 日 時 分	
		月 日 時 分		月 日 時 分	
		月 日 時 分		月 日 時 分	
		月 日 時 分		月 日 時 分	
		月 日 時 分		月 日 時 分	
		月 日 時 分		月 日 時 分	

[注意] 送付の連絡がありながら、令和 4 年 2 月 17 日 (木) 午後 4 時までに出願書類が到着しなかった場合、「一次募集の『入学願書 (二校併願者は入学願書及び入学併願書)』, 『チョウサシヨ』及び『特別支援学校長が別に定める書類』の郵便による送付における未着事態への対応」による対応を開始すること。

就学区域外出願報告書

(広島北特別支援学校への出願で教育委員会の許可を必要としない場合等)

令和 年 月 日

広島県教育委員会教育長様
(特別支援教育課)

出身学校名 _____

昭和
平成 年 月卒業見込・卒業
(修了見込)
令和

〒 _____

学校所在地 _____

志願者氏名 _____

保護者氏名 _____

志願者との続柄 ()

〒 _____

現住所 _____

電話番号 _____

教育委員会の許可を必要としない場合等に該当し、入学後も保護者の住所に変更がないことから、県外等からの出願を行います。

[注意] 1 県外等とは、広島県外（海外を含む。）を指す。

2 県外等から出願する予定で、教育委員会の許可が必要ない場合に提出する。

入学者選抜に関する携行願

令和 年 月 日

_____ 特別支援学校長様

出身学校名 _____

志願者氏名 _____

保護者氏名 _____

以下の携行品に関して、次の理由により、携行を承認してください。

1 携行品

2 理由

3 志願学科等

本校 分校	学科・コース	受付番号
分級 分教室	科 コース	

1 承認します。

2 承認できません。

【承認できない理由】 _____

令和 年 月 日

_____ 特別支援学校長 印

〔注〕 「1 承認します。」又は「2 承認できません。」のいずれかを○で囲み、承認できない場合は、その理由を記載すること。

学校教育法（抜粋）

（昭和二十二年三月三十一日法律第二十六号）

第五十七条 高等学校に入学することのできる者は、中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校を卒業した者若しくは中等教育学校の前期課程を修了した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。

第五十八条 高等学校には、専攻科及び別科を置くことができる。

- ② 高等学校の専攻科は、高等学校若しくはこれに準ずる学校若しくは中等教育学校を卒業した者又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とし、その修業年限は、一年以上とする。
- ③ 高等学校の別科は、前条に規定する入学資格を有する者に対して、簡易な程度において、特別の技能教育を施すことを目的とし、その修業年限は、一年以上とする。

第八十二条 第二十六条、第二十七条、第三十一条（第四十九条及び第六十二条において読み替えて準用する場合を含む。）、第三十二条、第三十四条（第四十九条及び第六十二条において準用する場合を含む。）、第三十六条、第三十七条（第二十八条、第四十九条及び第六十二条において準用する場合を含む。）、第四十二条から第四十四条まで、第四十七条及び第五十六条から第六十条までの規定は特別支援学校に、第八十四条の規定は特別支援学校の高等部に、それぞれ準用する。

学校教育法施行令（抜粋）

（昭和二十八年十月三十一日政令第三百四十号）

第二十二條の三 法第七十五條の政令で定める視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者の障害の程度は、次の表に掲げるとおりとする。

区分	障害の程度
視覚障害者	両眼の視力がおおむね〇・三未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によつても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴覚障害者	両耳の聴力レベルがおおむね六〇デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によつても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
知的障害者	一 知的発達が遅滞があり、他人との意思疎通が困難で日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする程度のもの 二 知的発達遅滞の程度が前号に掲げる程度に達しないものうち、社会生活への適応が著しく困難なもの
肢体不自由者	一 肢体不自由の状態が補装具の使用によつても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 二 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病弱者	一 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 二 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの

備考

- 一 視力の測定は、万国式試視力表によるものとし、屈折異常があるものについては、矯正視力によつて測定する。
- 二 聴力の測定は、日本産業規格によるオーディオメータによる。

学校教育法施行規則（抜粋）

（昭和二十二年五月二十三日文部省令第十一号）

第九十五条 学校教育法第五十七条の規定により、高等学校入学に関し、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 外国において、学校教育における九年の課程を修了した者
- 二 文部科学大臣が中学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 三 文部科学大臣の指定した者
- 四 就学義務猶予免除者等の中学校卒業程度認定規則（昭和四十一年文部省令第三十六号）により、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認定された者
- 五 その他高等学校において、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第百三十五条 第四十三条から第四十九条まで（第四十六条を除く。）、第五十四条、第五十九条から第六十三条まで、第六十五条から第六十八条まで、第八十二条及び第百条の三の規定は、特別支援学校に準用する。この場合において、同条中「第百四条第一項」とあるのは、「第百三十五条第一項」と読み替えるものとする。

- 2 第五十六条の五から第五十八条まで、第六十四条及び第八十九条の規定は、特別支援学校の小学部、中学部及び高等部に準用する。
- 3 第三十五条、第五十条第二項及び第五十三条の規定は、特別支援学校の小学部に準用する。
- 4 第三十五条、第五十条第二項、第七十条、第七十一条及び第七十七条の二から第七十八条の二の規定は、特別支援学校の中学部に準用する。
- 5 第七十条、第七十一条、第七十八条の二、第八十一条、第八十八条の三、第九十条第一項から第三項まで、第九十一条から第九十五条まで、第九十七条第一項及び第二項、第九十八条から第百条の二まで並びに第百四条第三項の規定は、特別支援学校の高等部に準用する。この場合において、第九十七条第一項及び第二項中「他の高等学校又は中等教育学校の後期課程」とあるのは「他の特別支援学校の高等部、高等学校又は中等教育学校の後期課程」と、同条第二項中「当該他の高等学校又は中等教育学校」とあるのは「当該他の特別支援学校、高等学校又は中等教育学校」と読み替えるものとする。

- 第九十条 高等学校の入学は、第七十八条の規定により送付された調査書その他必要な書類、選抜のための学力検査（以下この条において「学力検査」という。）の成績等を資料として行う入学者の選抜に基づいて、校長が許可する。
- 2 学力検査は、特別の事情のあるときは、行わないことができる。
 - 3 調査書は、特別の事情のあるときは、入学者の選抜のための資料としないことができる。
 - 4 連携型高等学校における入学者の選抜は、第七十五条第一項の規定により編成する教育課程に係る連携型中学校の生徒については、調査書及び学力検査の成績以外の資料により行うことができる。
 - 5 公立の高等学校（公立大学法人の設置する高等学校を除く。）に係る学力検査は、当該高等学校を設置する都道府県又は市町村の教育委員会が行う。

第百五十条 学校教育法第九十条第一項の規定により、大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 外国において学校教育における十二年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- 二 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 三 専修学校の高等課程（修業年限が三年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 四 文部科学大臣の指定した者
- 五 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定（以下「旧検定」という。）に合格した者を含む。）
- 六 学校教育法第九十条第二項の規定により大学に入学した者であつて、当該者をその後に入学者とする大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- 七 大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、十八歳に達したもの

広島県立特別支援学校の就学区域に関する規則

平成十五年十月二十一日教育委員会規則第九号

最終改正 平成三〇年一二月一三日教育委員会規則第九号

(趣旨)

第一条 この教育委員会規則（以下「規則」という。）は、広島県立特別支援学校（以下「特別支援学校」という。）の就学区域（以下「学区」という。）に関して必要な事項を定めるものとする。

(学区)

第二条 広島県立広島中央特別支援学校の学区は、広島県一円とする。

2 特別支援学校（広島県立広島中央特別支援学校を除く。）の学区は、別表のとおりとする。

3 広島県立広島南特別支援学校のうち高等部の学区は、前項の規定にかかわらず、広島県一円とする。

4 広島県立広島北特別支援学校のうち高等部普通科職業コースの学区は、第二項の規定にかかわらず、広島市（安佐南区及び安佐北区に限る。）、安芸高田市及び山県郡とする。

(就学することができる特別支援学校)

第三条 学校教育法施行令（昭和二十八年政令第三百四十号）第十四条第二項の規定により当該児童生徒等を就学させるべき特別支援学校は、その保護者（未成年の者についてはその親権者又は未成年後見人（親権者又は未成年後見人に事故等のやむを得ない事由があるときは、その代理人）、成年の者についてはその保証人をいう。以下同じ。）の住所（保護者が法人である場合にあっては、主たる事務所の所在地。以下この条及び次条において同じ。）の属する学区の特別支援学校とする。

2 就学すべき特別支援学校の幼稚部又は高等部は、当該就学希望者の保護者の住所の属する学区の特別支援学校とする。

3 障害児入所施設等の施設又は病院（以下「施設等」という。）に入所又は入院している者は、前二項の規定にかかわらず、入所又は入院している施設等の所在地の住所を学区とする特別支援学校に就学することができる。

4 次表の上欄に掲げる者は、前三項の規定にかかわらず、同表の下欄に掲げる特別支援学校に就学することとする。

対象者	校名
独立行政法人国立病院機構広島西医療センターに入院している者（入院する見込みの者を含む。）	広島県立広島西特別支援学校

5 次表の上欄に掲げる地域に保護者の住所が属する者（聴覚障害者に限る。）は、同表の下欄に掲げる特別支援学校に就学することができる。

地域	校名
東広島市（黒瀬町、黒瀬松ヶ丘、黒瀬学園台、黒瀬桜が丘一丁目、黒瀬切田が丘一丁目から三丁目まで、黒瀬春日野一丁目及び二丁目、黒瀬檜原北一丁目から三丁目まで、黒瀬檜原東一丁目から三丁目まで、黒瀬檜原西一丁目及び二丁目、福富町、豊栄町、河内町、入野中山台一丁目から五丁目まで、河内臨空団地並びに安芸津町を除く。）及び安芸郡（熊野町に限る。）	広島県立呉南特別支援学校

第四条 次の各号のいずれかに該当する者であって教育委員会の許可を得た者は、保護者の住所の属する学区以外の特別支援学校に就学することができる。

- 一 地理的条件により通学困難な者
- 二 身体的事由により通学困難な者
- 三 その他特別の事情がある者

（違反者に対する取扱い）

第五条 この規則に違反して特別支援学校に就学した者に対しては、就学させるべき特別支援学校の変更又は入学許可の取消しその他必要な措置を講じるものとする。

（実施規定）

第六条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

（中略）

附 則（平成二六年一二月二四日教育委員会規則第八号）

（施行期日）

- 1 この教育委員会規則は、平成二十七年四月一日から施行する。（後略）

（経過措置）

- 2 この教育委員会規則第二条の規定の施行の日の前日に広島県立三原特別支援学校、広島県立呉特別支援学校及び広島県立黒瀬特別支援学校の高等部に在学する生徒のうち、高等部の全課程を修了していないものの就学区域については、この教育委員会規則による改正後の就学区域規則別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成二七年九月十七日教育委員会規則第十号）

（施行期日）

- 1 この教育委員会規則は、平成二十八年一月一日から施行する。ただし、第二条の規定は、平成二十八年四月一日から施行する。

（経過措置）

- 2 この教育委員会規則第二条の規定の施行の日の前日に広島県立広島北特別支援学校の高等部（普通科職業コースを除く。）に在学する生徒のうち、高等部の全課程を修了していないものの就学区域については、この教育委員会規則による改正後の就学区域規則別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成三〇年一二月一三日教育委員会規則第九号）

（施行期日）

- 1 この教育委員会規則は、平成三十二年四月一日から施行する。

（経過措置）

- 2 この教育委員会規則の施行の日の前日に広島県立黒瀬特別支援学校の高等部に在学する生徒（医療法人西本会安浦病院に入院している生徒に限る。）のうち、高等部の全課程を修了していないものの就学すべき特別支援学校については、この教育委員会規則による改正後の就学区域規則別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表（第二条関係）

校名	分校名	障害種別	区域
広島県立広島南特別支援学校		聴覚障害	広島市、三原市（大和町に限る。）、府中市（上下町に限る。）、三次市、庄原市、大竹市、東広島市（黒瀬町、黒瀬松ヶ丘、黒瀬学園台、黒瀬桜が丘一丁目、黒瀬切田が丘一丁目から三丁目まで、黒瀬春日野一丁目及び二丁目、黒瀬檜原北一丁目から三丁目まで、黒瀬檜原東一丁目から三丁目まで、黒瀬檜原西一丁目及び二丁目並びに安芸津町を除く。）、廿日市市、安芸高田市、江田島市（江田島町を除く。）、安芸郡、山県郡、豊田郡、世羅郡（世羅町のうち小国、上津田、黒川、下津田、中、長田、山中福田、吉原に限る。）及び神石郡
広島県立尾道特別支援学校		聴覚障害	三原市（大和町を除く。）、尾道市、福山市、府中市（上下町を除く。）及び世羅郡（世羅町のうち小国、上津田、黒川、下津田、中、長田、山中福田、吉原を除く。）
		知的障害	尾道市（百島町、浦崎町、因島土生町、因島田熊町、因島三庄町、因島棕浦町、因島鏡浦町、因島外浦町、因島中庄町、因島大浜町、因島重井町、因島原町、因島洲江町及び瀬戸田町を除く。）
	しまなみ分校	知的障害	尾道市（因島土生町、因島田熊町、因島三庄町、因島棕浦町、因島鏡浦町、因島外浦町、因島中庄町、因島大浜町、因島重井町、因島原町、因島洲江町及び瀬戸田町に限る。）

広島県立広島特別 支援学校		知的障害	広島市（安佐南区（東原一丁目から三丁目まで、西原一丁目から九丁目まで、祇園一丁目から八丁目まで、祇園町、長束一丁目から六丁目まで、長東西一丁目から五丁目まで、長束町、山本一丁目から九丁目まで、山本新一丁目から五丁目まで及び山本町に限る。）及び安佐北区（白木町、狩留家町、小河原町、上深川町、深川町、深川一丁目から八丁目まで、亀崎一丁目から四丁目まで、真亀一丁目
			から五丁目まで、倉掛一丁目から三丁目まで、落合一丁目から五丁目まで、落合町、落合南一丁目から九丁目まで、落合南町、口田町、口田一丁目から五丁目まで、口田南一丁目から九丁目まで及び口田南町に限る。）に限る。）
		肢体不自由	広島市、呉市、三次市、庄原市、大竹市、廿日市市、安芸高田市、江田島市、安芸郡及び山県郡
広島県立福山特別 支援学校		肢体不自由	竹原市、三原市、尾道市、福山市、府中市、豊田郡、世羅郡及び神石郡
広島県立西条特別 支援学校		肢体不自由	東広島市
広島県立廿日市特 別支援学校		知的障害	広島市（佐伯区に限る。）、大竹市及び廿日市市
広島県立福山北特 別支援学校		知的障害	福山市（赤坂町、今津町、今津町二丁目から七丁目まで、内海町、神島町、金江町、神村町、草戸町、熊野町、佐波町、瀬戸町、高西町、高西町一丁目から四丁目まで、田尻町、津之郷町、鞆町後地、鞆町鞆、走島町、東明王台、東村町、藤江町、本郷町、松永町、松永町一丁目から七丁目まで、南今津町、南松永町一丁目から四丁目まで、宮前町一丁目及び二丁目、水呑町、水呑向丘、明王台一丁目から五丁目まで、柳津町、柳津町一丁

			目から五丁目まで、山手町、山手町一丁目から七丁目まで並びに沼隈町を除く。）、府中市（上下町を除く。）及び神石郡
広島県立三原特別支援学校		知的障害	竹原市、三原市、東広島市（河内町、入野中山台一丁目から五丁目まで、河内臨空団地及び安芸津町に限る。）、豊田郡及び世羅郡（世羅町のうち青近、赤屋、伊尾、宇津戸、小世良、小谷、川尻、甲山、西上原、東上原、別迫、青水、青山、井折、賀茂、京丸、黒淵、三郎丸、重永、津口、寺町、田打、徳市、戸張、中原、西神崎、東神崎、堀越、本郷及び安田に限る。）

<p>広島県立呉特別支援学校</p>		<p>知的障害</p>	<p>広島市（安芸区に限る。）、呉市（焼山町、焼山ひばりヶ丘町、焼山此原町、焼山松ヶ丘一丁目及び二丁目、焼山桜ヶ丘一丁目から三丁目まで、焼山政畝一丁目から三丁目まで、焼山西一丁目から三丁目まで、焼山中央一丁目から六丁目まで、焼山東一丁目から四丁目まで、焼山南一丁目及び二丁目、神山一丁目から三丁目まで、焼山三ツ石町、焼山宮ヶ迫一丁目及び二丁目、焼山北一丁目から三丁目まで、焼山本庄一丁目から五丁目まで、焼山泉ヶ丘一丁目及び二丁目、押込町、押込一丁目から六丁目まで、押込西平町、苗代町、栃原町、郷原町、郷原学びの丘一丁目及び二丁目、郷原野路の里一丁目及び二丁目、音戸町、音戸町坪井一丁目から三丁目まで、音戸町引地一丁目及び二丁目、音戸町鱚浜一丁目から三丁目まで、音戸町北隠渡一丁目及び二丁目、音戸町南隠渡一丁目から四丁目まで、音戸町高須一丁目から三丁目まで、音戸町波多見一丁目から十一丁目まで、音戸町畑一丁目から三丁目まで、音戸町有清一丁目及び二丁目、音戸町先奥一丁目から三丁目まで、音戸町藤脇一丁目から三丁目まで、音戸町早瀬一丁目から三丁目まで、音戸町田原一丁目から三丁目まで、音戸町渡子一丁目から三丁目まで並びに倉橋町に限る。）、江田島市及び安芸郡</p>
<p>広島県立庄原特別支援学校</p>		<p>知的障害</p>	<p>府中市（上下町に限る。）、三次市、庄原市及び世羅郡（世羅町のうち青近、赤屋、伊尾、宇津戸、小世良、小谷、川尻、甲山、西上原、東上原、別迫、青水、青山、井折、賀茂、京丸、黒淵、三郎丸、重永、津口、寺町、田打、徳市、戸張、中原、西神崎、東神崎、堀越、本郷、安田を除く。）</p>
<p>広島県立広島北特別支援学校</p>		<p>知的障害</p>	<p>広島市（中区、東区、南区、西区、安佐南区（東原一丁目から三丁目まで、西原一丁目から九丁目まで、祇園一</p>

			<p>丁目から八丁目まで、祇園町、長束一丁目から六丁目まで、長東西一丁目から五丁目まで、長束町、山本一丁目から九丁目まで、山本新町一丁目から五丁目まで及び山本町に限る。）、安佐北区（白木町、狩留家町、小河原町、上深川町、深川町、深川一丁目から八丁目まで、亀崎一丁目から四丁目まで、真亀一丁目から五丁目まで、倉掛一丁目から三丁目まで、落合一丁目から五丁目まで、落合町、落合南一丁目から九丁目まで、落合南町、口田町、口田一丁目から五丁目まで、口田南一丁目から九丁目まで及び口田南町に限る。）、安芸区及び佐伯区を除く。）、安芸高田市及び山県郡</p>
<p>広島県立沼隈特別支援学校</p>		知的障害	<p>尾道市（百島町及び浦崎町に限る。）及び福山市（赤坂町、今津町、今津町二丁目から七丁目まで、内海町、神島町、金江町、神村町、草戸町、熊野町、佐波町、瀬戸町、高西町、高西町一丁目から四丁目まで、田尻町、津之郷町、鞆町後地、鞆町鞆、走島町、東明王台、東村町、藤江町、本郷町、松永町、松永町一丁目から七丁目まで、南今津町、南松永町一丁目から四丁目まで、宮前町一丁目及び二丁目、水呑町、水呑向丘、明王台一丁目から五丁目まで、柳津町、柳津町一丁目から五丁目まで、山手町、山手町一丁目から七丁目まで並びに沼隈町に限る。)</p>
<p>広島県立黒瀬特別支援学校</p>		知的障害	<p>東広島市（河内町、入野中山台一丁目から五丁目まで、河内臨空団地及び安芸津町を除く。)</p>
<p>広島県立呉南特別支援学校</p>		聴覚障害	<p>呉市、竹原市、東広島市（黒瀬町、黒瀬松ヶ丘、黒瀬学園台、黒瀬桜が丘一丁目、黒瀬切田が丘一丁目から三丁目まで、黒瀬春日野一丁目及び二丁目、黒瀬檜原北一丁目から三丁目まで、黒瀬檜原東一丁目から三丁目まで、</p>

			黒瀬檜原西一丁目及び二丁目並びに安芸津町に限る。)及び江田島市(江田島町に限る。)
		知的障害	呉市(焼山町、焼山ひばりヶ丘町、焼山此原町、焼山松ヶ丘一丁目及び二丁目、焼山桜ヶ丘一丁目から三丁目まで、焼山政畝一丁目から三丁目まで、焼山西一丁目から三丁目まで、焼山中央一丁目から六丁目まで、焼山東一丁目から四丁目まで、焼山南一丁目及び二丁目、神山一丁目から三丁目まで、焼山三ツ石町、焼山宮ヶ迫一丁目及び二丁目、焼山北一丁目から三丁目まで、焼山本庄一丁目から五丁目まで、焼山泉ヶ丘一丁目及び二丁目、押込町、押込一丁目から六丁目まで、押込西平町、苗代町、枳原町、郷原町、郷原学びの丘一丁目及び二丁目、郷原野路の里一丁目及び二丁目、音戸町、音戸町坪井一丁目から三丁目まで、音戸町引地一丁目及び二丁目、音戸町鱒浜一丁目から三丁目まで、音戸町北隠渡一丁目及び二丁目、音戸町南隠渡一丁目から四丁目まで、音戸町高須一丁目から三丁目まで、音戸町波多見一丁目から十一丁目まで、音戸町畑一丁目から三丁目まで、音戸町有清一丁目及び二丁目、音戸町先奥一丁目から三丁目まで、音戸町藤脇一丁目から三丁目まで、音戸町早瀬一丁目から三丁目まで、音戸町田原一丁目から三丁目まで、音戸町渡子一丁目から三丁目まで並びに倉橋町を除く。)

特別支援学校の高等部普通科への過年齢者の入学許可基準について

1 過年齢者

養護学校の義務制が実施された昭和54年4月1日において、満15歳に達していた者のうち、その後、広島県立特別支援学校（以下「特別支援学校」という。）の高等部普通科に入学しようとする者で、学校教育法施行令第22条の3に規定する視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者、又は病弱者に該当する者。ただし、中学部に就学し、引き続き当該特別支援学校の高等部普通科に入学しようとする者を除く。

2 過年齢者の入学許可基準

特別支援学校の校長は、高等部普通科の第1学年の生徒で学級編制を行う。その際、学級数を増加させない範囲内で、次の（1）及び（2）により、特別支援学校の高等部普通科への過年齢者の入学を許可できる。

ただし、年度の中途からの入学については許可できない。

（1）入学を許可する学年

高等部普通科第1学年とする。

（2）入学許可に当たって

第1学年において、学級編制の標準とする1学級の生徒の数に余裕がある場合に入学を許可することができる。（単一障害学級で過年齢者を除く7人以下の生徒で学級を編制する場合及び重複障害学級で過年齢者を除く2人以下の生徒で学級を編制する場合に限る。）

なお、当該学校への入学予定者及び在学生徒に与える影響等を考慮し、入学を許可しないことができる。

3 入学許可の判定

前記2の「過年齢者の入学許可基準」において、入学許可の判定ができない場合が生じたときは、校長は広島県教育委員会と協議するものとする。

この場合において、広島県教育委員会は、入学許可のための順位を判定し、当該校長に通知する。

4 その他

これに定める入学許可基準等については、平成16年度入学者から適用するものとする。

附則

平成15年9月1日から施行する。

平成19年4月1日から施行する。

◇◇◇広島県立特別支援学校高等部入学者選抜実施要項についての問合せ先◇◇◇

広島県教育委員会事務局学びの変革推進部特別支援教育課
〒730-8514 広島市中区基町9-42
電話 082-513-4981

***** ホームページで入学者選抜の情報をお知らせ *****

広島県教育委員会ホームページ ホットライン教育ひろしま
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/>
